上谷遺跡 16 区

2023.2

学 校 法 人 金 山 学 園
埼玉県坂戸市教育委員会

上谷遺跡 16 区

2023.2

学 校 法 人 金 山 学 園
埼玉県坂戸市教育委員会

序　文

坂戸市は埼玉県央部に位置し、関越自動車道や首都圏中央連絡自動車道など関東地方の交通を支える道路網の結節点にあたります。地勢を見ると、市域の大部分は平坦な台地で占められており、その縁辺部には、越辺川や高麗川によって形成された広大な沖積平野が広がっています。安定した台地と豊かな水源、肥沃な沖積平野をもつ坂戸市周辺では、約１万５千年前より人々が活動の場として歴史を歩み続けており、その痕跡は遺跡として今も私たちの足元に眠っております。

本報告の「上谷遺跡」は、坂戸市東部の中小坂地区に所在し、大谷川を北に臨む台地上に位置する遺跡です。この遺跡では、昭和５０年に東坂戸団地造成に伴う大規模な発掘調査が実施されております。これは、本市の行政による本格的な発掘調査の先駆けとなるもので、坂戸市の発掘調査史においても重要な遺跡に位置づけられます。

上谷遺跡１６区では、遺跡南側の約１１７㎡が調査対象となり、古墳時代の竪穴建物など古代の生活痕跡が数多く発見されました。

特に１号竪穴建物から出土した多くの遺物は、古墳時代の生活の様子や、土器様式を今に伝える貴重な一括資料となりました。

本書が学術研究の基礎資料として、古代から繋がる郷土の歴史の解明に広く御活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、事業者をはじめ、御協力賜りました多くの関係者の方に深く感謝申し上げます。

令和５年２月

坂戸市教育委員会
教育長　太田　正久

例　言

1　本書は、埼玉県坂戸市大字中小坂字金山519番1に所在する上谷遺跡16区の発掘調査報告書である。書籍名は『上谷遺跡16区』である。

2　本書に収録された調査区と調査原因、発掘調査期間、調査主体者と担当者は、以下のとおりである。

16区　坂戸市大字中小坂字金山519番1　認定こども園園舎建設
発掘調査　令和3年3月19日　～　5月11日
調査主体　坂戸市教育委員会　担当　山本良太

3　本地区の発掘調査について、開発者及び土地所有者からの協力を受けた。

4　本書は、坂戸市教育委員会の委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が作成した。
担当者・執筆者と編集期間は、以下のとおりである。

編　　集　山本良太（坂戸市教育委員会）
宮田忠洋（有限会社毛野考古学研究所）
執 筆 者　Ⅰ-1～3、Ⅱ、Ⅲ-1、Ⅳ　山本良太
Ⅰ-4、Ⅲ-2～4　宮田忠洋
編集期間　令和4年6月10日　～　令和5年2月17日

5　本書に使用した遺物実測図は、有限会社毛野考古学研究所が作成した。また、遺構写真は発掘調査担当者が、遺物写真は有限会社毛野考古学研究所が撮影した。

6　本遺跡に係る図面、写真、遺物等の資料は坂戸市教育委員会が保管している。

7　発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々からご教示・ご協力を賜りました。記して感謝いたします。（敬称略・50音順）
大久保聡　尾形則敏　川田馨秋　木村結香　徳留彰紀　外山政子　永井智教

凡　例

1　本書掲載の遺構番号は、全て調査時のものを踏襲している。
2　掲載した遺構平面図・断面図の縮尺は、1/200、1/60、1/30 を基本としている。いずれの図にもスケールを付してある。
3　調査区全体の座標は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系を使用した。なお、遺構平面図に記入した方位は、座標北を示す。
4　遺構平面図の遺物出土地点番号は、遺物図の番号と一致する。
5　遺構平面図のトーンについては、以下のとおりである。

地山　　被熱範囲

6　掲載した遺物図の縮尺は、土器は 1/4、土製品は 1/2、鉄製品は 1/2 を基本としている。いずれの図にもスケールを付してある。
7　遺物実測図のうち、中心線が一点鎖線の遺物は、反転実測したものを示す。
8　遺物実測図のトーンについては、以下のとおりである。

赤彩　　釉

9　遺物観察表における凡例は、以下のとおりである。
・法量の単位は全てcm、重量についてはgで記載した。（　）内の数値は推定値を、［　］内の数値は残存値を示す。
・胎土（含有物）は、肉眼で観察できるものを次のように示した。
石英＝石　長石＝長　角閃石＝角　海綿骨針＝針　凝灰岩＝凝　チャート＝チ　片岩＝片
赤色砂粒＝赤　白色砂粒＝白　黒色砂粒＝黒
・色調は、『新版標準土色帖』2014 年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修）に即した。
・焼成は、土師器・土製品が「良好」・「普通」・「不良」の３段階、須恵器は「酸化焔」・「還元焔」に分けた。
・残存率は、観察者の主観による。
・出土位置については、竪穴建物床面から上位５cm までの間で出土したものを「床」とし、覆土から出土したものは、相対的、主観的に「上層」・「中層」・「下層」に区分した。貼床の下位から出土したものについては、「床下」とした。また、カマド天井より下位で、袖の内側を「カマド内」とし、袖及び袖の崩落土中から出土した遺物については、「カマド袖」とした。
10　本書に使用した地図類は、第２図が『新編埼玉県史　別編３　自然』中の「第２図　埼玉県の地形区分と名称」を改変したもの、第３図が国土地理院発行２万５千分の１地形図『川越北部』、第４図が坂戸市発行『坂戸市基本図』２千５百分の１である。

目　次

序　文
例　言
凡　例
目　次
Ⅰ　発掘調査の概要 ・・・・・・・・・・・ 1
　1　発掘調査に至る経過・・・・・・ 1
　2　発掘調査の経過 ・・・・・・・・ 1
　3　発掘調査の方法 ・・・・・・・・ 2
　4　基本層序・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅱ　遺跡の立地と環境 ・・・・・・・・・ 3
　1　地理的環境 ・・・・・・・・・・ 3
　2　歴史的環境 ・・・・・・・・・・ 3
Ⅲ　発見された遺構と遺物・・・・・・・ 6
　1　遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・ 6
　2　竪穴建物・・・・・・・・・・・・・ 9
　3　土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・31
　4　溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・31
Ⅳ　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・32
　1　出土遺物の変遷について ・・・32
　2　1号竪穴建物について ・・・・34
写真図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第 2 図　埼玉県の地形・・・・・・・・・・・・・ 3
第 3 図　周辺の主要遺跡・・・・・・・・・・・・ 5
第 4 図　上谷遺跡調査地位置図 ・・・・・・・・ 7
第 5 図　上谷遺跡 16 区全体図 ・・・・・・・・ 8
第 6 図　1号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・ 10
第 7 図　1号竪穴建物出土遺物（1）・・・・・ 11
第 8 図　1号竪穴建物出土遺物（2）・・・・・ 12
第 9 図　2号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・ 15
第 10 図　2号竪穴建物カマド ・・・・・・・・・ 16
第 11 図　2号竪穴建物出土遺物（1）・・・・・ 17
第 12 図　2号竪穴建物出土遺物（2）・・・・・ 18
第 13 図　3号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・ 20
第 14 図　3号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・ 21
第 15 図　4号竪穴建物・・・・・・・・・・・・・ 23
第 16 図　4号竪穴建物カマド ・・・・・・・・・ 24
第 17 図　4号竪穴建物出土遺物（1）・・・・・ 25
第 18 図　4号竪穴建物出土遺物（2）・・・・・ 26
第 19 図　5号竪穴建物・カマド ・・・・・・・・ 29
第 20 図　5号竪穴建物出土遺物 ・・・・・・・・ 30
第 21 図　1号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 22 図　1号溝 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 23 図　上谷遺跡 16 区土器変遷図 ・・・・・・ 33

挿表目次

第1表　1号竪穴建物出土遺物観察表（1）・・ 13
第2表　1号竪穴建物出土遺物観察表（2）・・ 14
第3表　2号竪穴建物出土遺物観察表（1）・・ 18
第4表　2号竪穴建物出土遺物観察表（2）・・ 19
第5表　3号竪穴建物出土遺物観察表 ・・・・・ 21
第6表　4号竪穴建物出土遺物観察表（1）・・ 27
第7表　4号竪穴建物出土遺物観察表（2）・・ 28
第8表　5号竪穴建物出土遺物観察表 ・・・・・ 30

写真目次

図版1　1　調査区全景（南西から）
　　2　調査区全景（北西から）
図版2　1　1号竪穴建物　遺物出土状況
　　2　1号竪穴建物　遺物出土状況

	3	1号竪穴建物
	4	1号竪穴建物　掘り方
	5	2号竪穴建物
	6	2号竪穴建物　掘り方
	7	2号竪穴建物カマド
	8	2号竪穴建物カマド　掘り方
図版3	1	3号竪穴建物
	2	3号竪穴建物　掘り方
	3	3号竪穴建物　掘り方
	4	3号竪穴建物貯蔵穴　遺物出土状況
	5	3号竪穴建物貯蔵穴　炭化物出土状況
	6	4号竪穴建物　遺物出土状況
	7	4号竪穴建物
	8	4号竪穴建物　掘り方
図版4	1	4号竪穴建物カマド
	2	5号竪穴建物
	3	5号竪穴建物
	4	5号竪穴建物カマド
	5	5号竪穴建物カマド　遺物出土状況
	6	5号竪穴建物カマド　掘り方
	7	1号土坑
	8	1号溝
図版5	1	1号竪穴建物　第7図1
	2	1号竪穴建物　第7図2
	3	1号竪穴建物　第7図3
	4	1号竪穴建物　第7図4
	5	1号竪穴建物　第7図5
	6	1号竪穴建物　第7図6
	7	1号竪穴建物　第7図9
	8	1号竪穴建物　第7図10
図版6	1	1号竪穴建物　第7図11
	2	1号竪穴建物　第7図12
	3	1号竪穴建物　第7図13
	4	1号竪穴建物　第7図16
	5	1号竪穴建物　第7図17
	6	1号竪穴建物　第7図18
	7	1号竪穴建物　第7図19
図版7	1	1号竪穴建物　第7図20
	2	1号竪穴建物　第7図21
	3	1号竪穴建物　第8図22
	4	1号竪穴建物　第8図23
図版8	1	1号竪穴建物　第8図24
	2	1号竪穴建物　第8図25
	3	1号竪穴建物　遺物集合写真
図版9	1	2号竪穴建物　第11図1
	2	2号竪穴建物　第11図2
	3	2号竪穴建物　第11図3
	4	2号竪穴建物　第11図4
	5	2号竪穴建物　第11図7
	6	2号竪穴建物　第11図15
	7	2号竪穴建物　第11図9
図版10	1	2号竪穴建物　第11図13
	2	2号竪穴建物　第11図14
	3	2号竪穴建物　第12図17
	4	2号竪穴建物　第12図18
	5	2号竪穴建物　第12図19
	6	2号竪穴建物　第12図21
図版11	1	3号竪穴建物　第14図1
	2	3号竪穴建物　第14図4
	3	3号竪穴建物　第14図5
	4	3号竪穴建物　第14図6
	5	3号竪穴建物　第14図7
	6	3号竪穴建物　第14図8
図版12	1	4号竪穴建物　第17図1
	2	4号竪穴建物　第17図3
	3	4号竪穴建物　第17図4
	4	4号竪穴建物　第17図5
	5	4号竪穴建物　第17図6
	6	4号竪穴建物　第17図7
	7	4号竪穴建物　第17図8
	8	4号竪穴建物　第17図10
図版13	1	4号竪穴建物　第17図13
	2	4号竪穴建物　第17図14
	3	4号竪穴建物　第17図15
	4	4号竪穴建物　第17図16
	5	4号竪穴建物　第17図17
図版14	1	4号竪穴建物　第18図21
	2	4号竪穴建物　第18図22
	3	4号竪穴建物　第18図23
	4	4号竪穴建物　第18図24
	5	4号竪穴建物　第18図26
図版15	1	4号竪穴建物　第18図27
	2	4号竪穴建物　第18図28
	3	4号竪穴建物　第18図29
	4	5号竪穴建物　第20図4
	5	5号竪穴建物　第20図5

Ⅰ　発掘調査の概要

1　発掘調査に至る経過

坂戸市は勝呂廃寺をはじめとして、市内に多数の埋蔵文化財包蔵地を抱えている。坂戸市教育委員会（以下、市教委）では、埋蔵文化財の保護対策として、開発に際しては必要に応じて試掘確認調査を実施し、その所在や範囲の把握、保存に関する協議に努めている。

上谷遺跡16区の発掘調査に至る経緯は以下のとおりである。令和2年12月18日、坂戸市大字中小坂519番地内での認定こども園園舎建設計画に伴い、学校法人金山学園（以下開発事業者）より建設予定地内における埋蔵文化財の有無と、その取扱いについて、埋蔵文化財包蔵地の開発行為事前協議書が市教委へ提出された。

市教委は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である上谷遺跡（No.27-027）に該当していることから、開発事業者へ現状把握を目的とした試掘確認調査への協力を要請し、合意を得た。

令和3年2月3日に試掘確認調査を実施したところ、開発区域内に竪穴建物等の遺構が多数存在している状況が確認できた。試掘調査の結果を受け、令和3年2月より市教委と開発事業者間で埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を開始した。数度にわたる協議の結果、園舎建物建設予定箇所における、遺構の現状保存は不可能であると判断し、市教委が調査主体となり、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査の実施にあたっては、令和3年3月19日に文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出（坂教社発第198号）を埼玉県教育委員会（以下県教委）教育長あてへ進達した。これに対して、県教委から同年3月21日に指示通知（教文資第4－2052号）を受けた。文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知（坂教社発第197号）は同年3月19日付けで県教育長あてへ通知した。令和3年3月23日には、開発事業者と市教委間において発掘調査（整理）委託契約を締結した。

2　発掘調査の経過

発掘調査は、令和3年3月19日から開始し、同年5月11日まで実施し、実働日数は17日間にわたった。発掘調査の経過については、以下のとおりである。

3月19日（金）園内における調査のため、調査区及び重機稼働範囲の安全柵設置および立ち入り規制のロープ設置等、準備工を行う。

3月23日（火）幼稚園卒園式のため休工。

3月24日（水）重機による表土掘削および排土山の成形作業を行う。掘削作業中に通水した水道管1本を検出したため、調査区設定を一部変更した。現場に機材を搬入後、調査区をブルーシートで養生し、令和2年度内の作業を終了する。

4月6日（火）令和3年度となり、発掘調査を再開する。この日より作業員を投入し、遺構確認作業および各遺構（1、2、4号竪穴建物）の調査を開始する。同日基準点測量を実施する。

4月7日（水）1号溝の調査を開始する。

4月9日（金）1号溝の完掘。

4月15日（木）5号竪穴建物の調査を開始する。

4月16日（金）2号竪穴建物カマドの調査を開始する。

4月20日（火）1号土坑の調査を開始する。

4月21日（水）重機による調査区の拡張を行い、1号竪穴建物全体を検出する。

4月22日（木）1、4号竪穴建物遺物出土状況の写真撮影を行う。

4月27日（火）4号竪穴建物カマドおよび3号竪穴建物の調査を開始する。調査区の全景の写真撮影を行う。

5月6日（木）残る遺構の平面測量作業を行う。

5月7日（金）重機による調査区の埋め戻しを行う。調査対象区は、調査終了後から園舎建設工事着工までの数か月間、園庭として利用するため、埋め戻し後、ローラーによる転圧を行った。

5月11日（火）重機の稼働が終了後、安全柵および現場機材を撤収し現地での作業を終了した。

3　発掘調査の方法

今回の調査では、遺構が開発対象区域内のほぼ全域で確認されたため、表土除去で生じた排土については、園敷地内に排土置場を設定し、仮置きした。表土は重機を用いて除去し、その後人力による遺構確認作業を行った。遺構番号については遺構種別ごとに１番から番号を付した。

検出した各遺構は平面プランの確認後、人力による掘り下げを行った。各遺構は十文字のベルトまたは長軸半裁によるセクション面を設定し、土層の観察を行った。土層は分層し、土層注記、写真撮影、図面作成等の記録作業を行った後に完掘した。

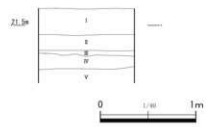
遺構から出土した遺物は完形の個体や、一部のみの破損で残存率が良好な個体、破砕しているものの破片が集中している個体、大型の破片、石製品、土製品、鉄製品、礫等特異なものについては、トータルステーションを用いて一点ずつ取り上げた。それ以外の微細な破片遺物等については遺構ごとに一括して取り上げた。

遺構断面図は、基本的に 1/20 で作図し、カマド、貯蔵穴、遺物出土状況の微細図については、平面図・断面図ともに 1/10 で作図した。遺構平面図の作成は、トータルステーションを用いた。

発掘調査の記録写真については、35㎜フィルムカメラ（モノクロネガフィルム）とデジタル一眼レフカメラを使用した。

4　基本層序

基本層序は、調査区東壁で記録した。層序は、Ⅰ～Ⅴ層に分層した。Ⅰ層は、砕石・敷砂層を含む造成土層である。Ⅱ層は旧耕作土で、暗褐色土である。Ⅲ層はソフトローム漸移層で、暗褐色土である。本層上面で遺構を確認した。Ⅳ層はソフトローム層で、黄褐色土である。Ⅴ層はハードローム層で、明黄褐色土である。各層の観察内容は、第１図のとおりである。



基本層序

	色調	締り	粘性	備考
Ⅰ	暗褐色	普通	やや強い	砕石・敷砂層を含む造成土層
Ⅱ	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　白色粒子中量 耕作土
Ⅲ	暗褐色	普通	普通	ソフトローム漸移層 Ⅲ層上面が遺構確認面
Ⅳ	黄褐色	普通	普通	ソフトローム層
Ⅴ	明黄褐色	普通	やや強い	ハードローム層

第１図　基本層序

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

坂戸市は埼玉県央部に位置しており、東側には関東平野、西側には外秩父山地を臨む（第２図）。周辺地形は台地、丘陵、自然堤防、低地によって構成されるが、市域の大部分は入間台地が占めている。台地上の標高は 20 ～ 50 m を測り、西側の丘陵地帯に向けて漸移的に高くなる。なお、市内最高位は外秩父山地の先端部にあたる多和目地区城山で、標高 115 m を測る。

入間台地は、荒川水系入間川の支流である越辺川、高麗川などによって形成された扇状地性の台地で、河川によって開析を受けた単位ごとに、坂戸台地、毛呂台地、飯能台地の３支台に区分される。

坂戸市の東半部にあたる坂戸台地は、高麗川と小畔川によって他の支台から画され、地形の起伏が少なく、概ね平坦な面が広がる。台地内陸部には、秩父山地からの伏流水を水源とした湧水点が複数存在し、これらを起源とした飯盛川、大谷川、谷治川などの小河川が網流することで小支谷が形成されている。

坂戸台地の西半部から毛呂山町にかけて広がる毛呂台地は、越辺川、高麗川と毛呂山丘陵に挟まれた狭小な範囲に形成されている。台地中央部を縦走する越辺川支流の葛川の開析と、背後に迫る丘陵地の影響で、台地は起伏に富んだ地形となっている。

市域の大半を台地が占める一方、各台地の縁辺部には、河川によって形成された広大な沖積平野が広がっており、今もなお水田地帯として人々の生活を支えている。

2　歴史的環境

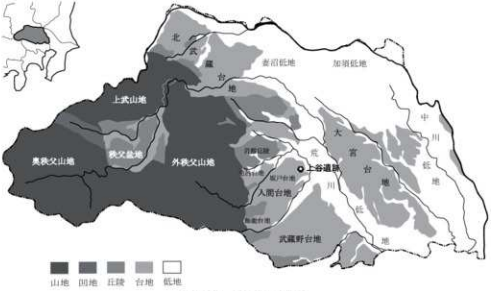
本遺跡の立地する坂戸台地では、旧石器時代から中近世にかけて数多くの遺跡が分布しており、市内の埋蔵文化財包蔵地は 152 か所を数える（令和５年２月現在）。

ここでは、本書で報告する上谷遺跡 16 区の調査成果に関連する古墳時代を中心に周辺遺跡の様相を概観したい（第３図）。

古墳時代前期

坂戸台地東部における弥生時代の遺跡は台地縁辺部に集落や方形周溝墓群が散見されているものの、遺跡の密度としては少ない。一方、古墳時代前期になると、遺跡が急増する傾向が看取される。

坂戸台地の東側縁辺部では、台地縁辺部に集落が形成されている。特に、河川や湧水等の開析よって形成された島状ないしは半島状の高台などに集



第２図　埼玉県の地形

落が立地する傾向にあり、台地周辺の小支谷を水場や耕作地として利用していた可能性も想定される。台地北東部では附島遺跡（9）で竪穴建物群と方形周溝墓２基が発見されており、対岸の別所遺跡（7）でも集落が確認されている。附島遺跡の南側の木曽免遺跡（12）では、竪穴建物 13 棟と方形周溝墓２基が検出されている。隣接する北谷遺跡（13）や五反田遺跡（11）、牛塚山古墳群（D）では方形周溝墓群が発見されており、五反田遺跡７区では、周溝の一部を共有するように連結した方形周溝墓３基を調査し、周溝内から南関東系の土師器壺など多数の遺物が発見された。木曽免遺跡の小支谷を挟んで南対岸に位置する南方遺跡（14）でも、竪穴建物１棟が発見されている。

大谷川の両岸では、前期の遺跡が多数発見されており、左岸の紺屋地区では丸山遺跡（15）や宮東遺跡（16）、高窪遺跡（17）で竪穴建物が多数確認されており、景台遺跡（18）で検出された方形周溝墓との関連が想定される。右岸では、大穴遺跡（20）や上谷遺跡（21）、金山遺跡（23）などで集落が確認され、上谷遺跡 15 区では一辺８m を超える大型竪穴建物が発見されている。また、大谷川に面した北側緩斜面にある西窪遺跡（19）では多数の方形周溝墓が発見されている。

古墳時代中期前半

古墳時代前期に形成された集落の大半は、中期前半には衰退し、遺跡数は減少する。坂戸台地では、上谷遺跡や前林遺跡（22）などで和泉式期とみられる竪穴建物が発見されているが、遺構数は少なく、本格的な集落の造営は後述する中期後半以降となる。新嘗井遺跡（24）、新嘗井北遺跡（25）では、集落遺跡とともに、石製模造品が数多く発見されており、石製模造品の製作と、周辺地域への供給を担っていた集落の可能性が指摘されている。

小畔川右岸では、御伊勢原遺跡（27）と上組遺跡（30）において和泉式期の大規模な集落が形成される。両遺跡では、多数の竪穴建物や石製模造品や土器を伴う大規模な祭祀遺構が発見されており、当該期の拠点的集落に位置付けられよう。

古墳時代中期後半～終末期

中期後半になると、前期以降途絶えていた集落の造営が再び開始する。台地北東部では、馬場遺跡（2）や道場遺跡（3）、新田前遺跡（4）、明泉遺跡（5）などで中期後半の集落が営まれる。

台地南東部では、上谷遺跡、前林遺跡で大規模な集落が形成され、終末期まで継続して営まれる。両遺跡では、これまでに粘土採掘坑や土師器坏に内包されたベンガラ塊などが発見されており、比企・入間地域に広く分布している赤彩された土器群の製作を担った拠点的集落の一つであった可能性も指摘されている。

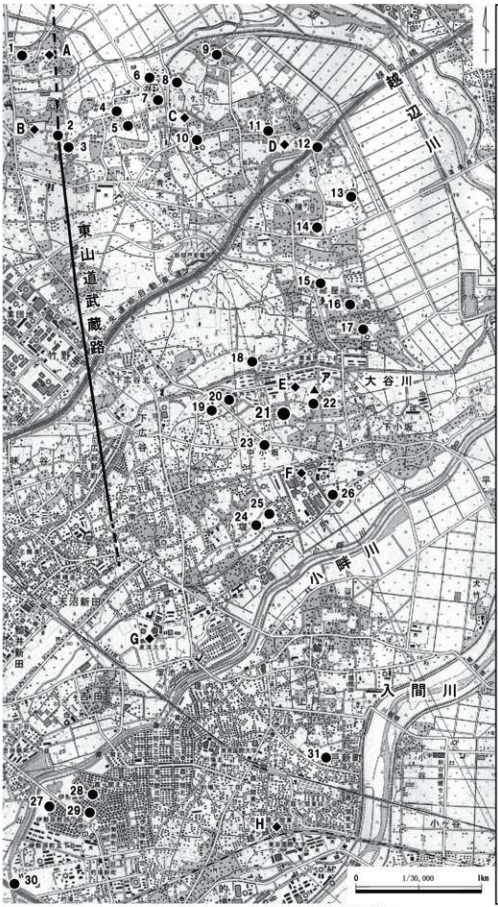
古墳時代後期になると、集落は増加する傾向にあり、台地北東部では新田前遺跡などの集落が継続すると同時に、勝呂遺跡（1）や蔵ヶ谷戸遺跡（8）などでも集落が形成される。

坂戸市域における本格的な古墳の築造は中期後半に始まる。坂戸台地では牛塚山古墳群や浅羽野古墳群で古墳の築造が開始する。上谷遺跡の南側に位置する下小坂古墳群（F）では、豊富な副葬品を伴った円墳であるどうまん塚古墳が築造される。同古墳群では、東洋護謨化学工業の工場建設伴う発掘調査で、武器、装飾品、鏡など豊富な副葬品を伴う円墳３基が発見されており、同時期に集落が成立している上谷遺跡との関連が想定される。

後期になると、牛塚山古墳群では中期後半で古墳の築造が停止し、勝呂古墳群（A）、雷電塚古墳群（C）、新町古墳群で古墳の築造が開始する。下小坂古墳群では、継続して古墳が築造される。前方後円墳は下小坂４号墳、雷電塚１号墳、新町１号墳の３基が築造される。埴輪を樹立する古墳は多く、円筒埴輪をはじめ、人物埴輪や馬型埴輪などが出土している。

終末期段階には、下小坂古墳群、勝呂古墳群、新町古墳群で引き続き古墳の築造が行われる。また、塚越古墳群（B）が終末期段階より群集墳の形成を開始する。勝呂古墳群では大型円墳である勝呂神社古墳が築造される。

窯跡は、７世紀後半に坂戸台地南東部の上谷遺跡内で西谷ツ窯跡（ア）が開窯するが、１基単独の単発窯とみられる。



主要遺跡一覧

1　勝呂遺跡
2　馬場遺跡
3　道場遺跡
4　新田前遺跡
5　明泉遺跡
6　塚越渡戸遺跡
7　別所遺跡
8　蔵ヶ谷戸遺跡
9　附島遺跡
10　宿東遺跡
11　五反田遺跡
12　木曽免遺跡
13　北谷遺跡
14　南方遺跡
15　丸山遺跡
16　宮東遺跡
17　高窪遺跡
18　景台遺跡
19　西窪遺跡
20　大穴遺跡
21　上谷遺跡（本書所収）
22　前林遺跡
23　金山遺跡
24　新嘗井遺跡
25　新嘗井北遺跡
26　登戸遺跡
27　御伊勢原遺跡
28　女堀遺跡
29　東女堀遺跡
30　上組遺跡
31　霞ヶ関遺跡
A　勝呂古墳群
B　塚越古墳群
C　雷電塚古墳群
D　牛塚山古墳群
E　天王山古墳群
F　下小坂古墳群
G　中野台古墳群
H　的場古墳群
7　西谷ツ窯跡

第３図　周辺の主要遺跡

Ⅲ　発見された遺構と遺物

1　遺跡の概要

（1）上谷遺跡の概要

上谷遺跡は坂戸台地南東部に位置し、遺跡の北側には大谷川が東西方向に流れる。遺跡北側は大谷川に向かって緩やかに傾斜する緩斜面となっており、遺跡中央部には平坦面な面が広がっている。遺跡の南側には埋没谷が存在し、かつては湧水も確認されていたと言われる。

上谷遺跡を含む中小坂地区では、遺跡登録以前より好事家によって考古遺物が数多く収集されていた。表採資料の中には、旧石器時代の尖頭器も含まれており、最も古い活動の痕跡は旧石器時代にまで遡るとみられる。

上谷遺跡では、昭和44年に城西大学考古学研究会による学術調査を嚆矢に、これまでに26地点で調査を実施している（第4図）。特に昭和50年に実施された東坂戸団地造成と上谷小学校建設に伴う発掘調査は、坂戸市行政発掘黎明期に実施された初めての本格的な大規模発掘調査であり、本市の発掘調査史を語る上でも重要な遺跡と言えよう。

本遺跡で確認されている遺構は、縄文時代中期と、古墳時代前期から終末期が中心となる。縄文時代中期の遺構は、城西大学調査地点と10区を中心とした遺跡西側の緩斜面に立地している。これまでの調査成果で竪穴建物約10棟が弧を描いて発見されており、概ね馬蹄形の環状集落が形成されていたものと想定される。

古墳時代の遺構は、前期が遺跡西側に集中しており、13区や15区で竪穴建物が検出されている。なかでも15区1号竪穴建物は一辺8mを超える大型の建物で、ガラス小玉などが出土している。

古墳時代中期後半以降の集落の中心は、遺跡の北側から東側にかけて分布しており、前述の小学校建設に伴う調査では、39棟もの竪穴建物が発見されている。集落域は上谷遺跡東側に隣接する前林遺跡まで途切れることなく続いており、両遺跡は同一の集落域である可能性が高い。

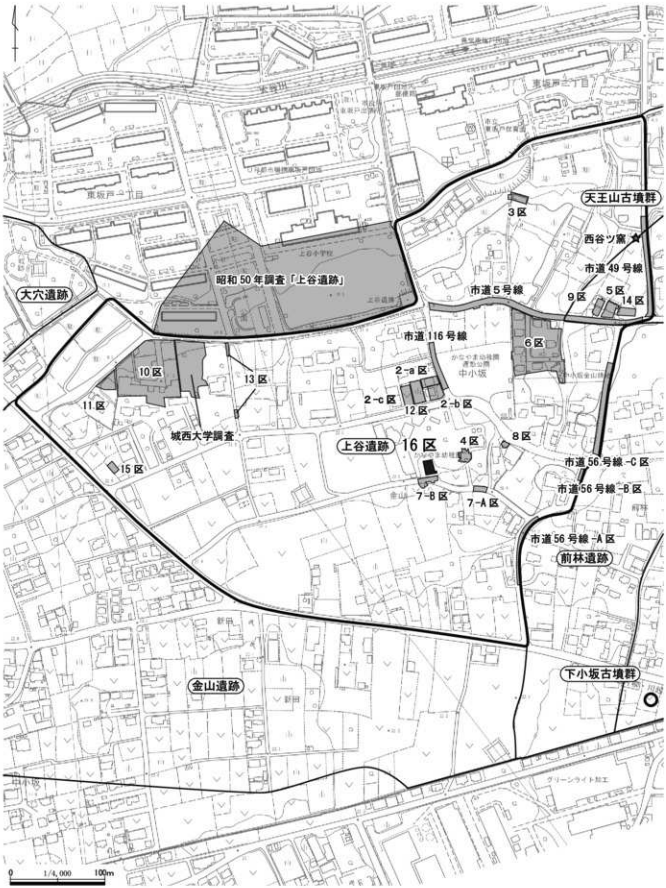
遺跡東側の14区では、古墳時代中期後半段階の粘土採掘坑が発見されており、周辺で土師器の製作を行っていた可能性が指摘されている。7世紀前半段階には遺跡北東部の緩斜面で西谷ツ窯跡が開窯しており、須恵器窯1基を調査している。

（2）16区の概要

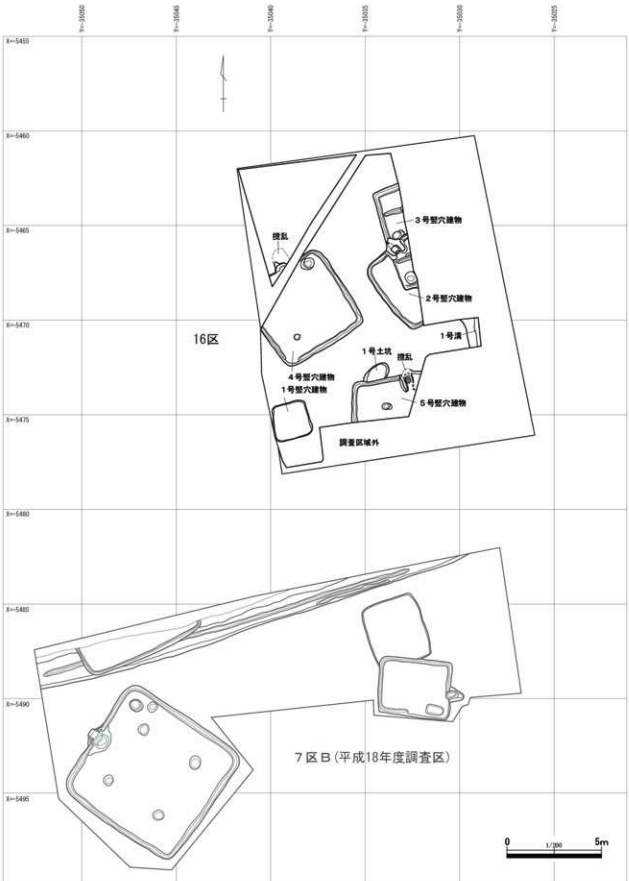
上谷遺跡16区は遺跡の中央部に位置し、標高約22mを測る。上谷遺跡16区の調査原因である認定こども園園舎建設に伴う開発面積は約3,882㎡であり、そのうち調査対象面積は約117㎡である。

今回の調査で検出された遺構は、竪穴建物5棟、溝1条、土坑1基である（第5図）。竪穴建物はすべて古墳時代中期から終末期に比定され、溝と土坑については出土遺物等が少なく、時期は不明である。1号竪穴建物は、一辺約2mの竪穴建物で、ほぼ完形の遺物が多数出土している。2号竪穴建物と3号竪穴建物は切り合い関係にあり、3号竪穴建物は調査区内で最も古い段階である古墳時代中期前葉に比定される。

4号竪穴建物は、一辺約5mを測り、床面付近より複数の完形に近い遺物が出土している。北側に敷設されたカマド部分については、一部のみの検出にとどまり、大半は既設水道管による制約を受けており、詳細は不明である。



第４図　上谷遺跡調査地位置図



第５図　上谷遺跡 16 区全体図

2　竪穴建物

1号竪穴建物（第6～8図　第1・2表　図版2・5～8）

調査区南西隅に所在する。

平面形状は、隅丸台形を呈する。規模は、長軸2.04 m、短軸1.94 m、床面までの深さは0.33 mを測る。主軸は、N-76°-Eである。

覆土は、4層に分層される。ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土からなり、レンズ状堆積を呈する。

床面は貼床で、掘り方をローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土（第6図5層）で埋め戻して構築している。細かい起伏はあるものの、概ね平坦である。顕著な硬化面は認められなかったが、全体的によく締まる。

掘り方は、床下全面で確認された。底面には大小の起伏が認められる。床面からの深さは、最大で0.06 mを測る。

壁溝・柱穴・貯蔵穴・炉・カマドは、検出されていない。

遺物は多く、土師器・須恵器・礫がみられた。覆土中層から床上にかけて出土し、建物内西側に集中している。出土した土師器は、完形に近いものが大半で、高坏や甕は倒位、坏は正位の状態で検出された。出土した遺物から、須恵器甕1点（第7図1）・土師器坏9点（第7図2～10）・土師器椀1点（第7図11）・土師器高坏4点（第7図12～15）・土師器鉢2点（第7図16・17）・土師器小型甕2点（第7図18・19）・土師器甕（第7・8図20～24）・土師器甑（第8図25）を掲載した。2～17の坏や椀、高坏は、内外面に赤色塗彩されている。また、2・3・10～12の内面には痘粒状の剝離痕があり、10は内面の一部が発泡するなど、二次焼成を受けた痕跡が認められる。

本建物の時期は、出土遺物の特徴から、5世紀末葉に比定される。

2号竪穴建物（第9～12図　第3・4表　図版2・9・10）

調査区中央東寄りに所在する。全体の1／2を検出し、残る1／2は調査区域外である。北東側が3号竪穴建物と重複し、本遺構が新しいことが確認されている。

平面形状は、隅丸方形を呈していると推定される。規模は、検出された範囲で長軸4.32 m、短軸3.18 m、床面までの深さは0.30 mを測る。主軸は、N-51°-Wである。

覆土は、8層に分層される。ローム粒子・ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土からなり、レンズ状堆積を呈する。3～5層には、焼土粒子・焼土ブロック・炭化物が僅かにみられる。

壁溝は、カマドを除いて、全周する。規模は、幅0.16～0.24 m、深さ0.06～0.12 mを測る。断面形状は、逆台形を呈する。

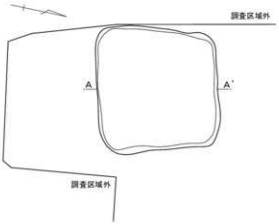
柱穴及び貯蔵穴は、検出されていない。

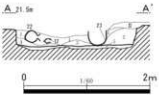
床面は貼床で、掘り方をローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土（第9図9層）で埋め戻して構築している。概ね平坦であるが、中央に向かって緩やかに窪む。顕著な硬化面は認められなかったが、全体的によく締まる。

掘り方は、床下全面で検出された。底面には大小の起伏が認められる。床面からの深さは、最大で0.16 mを測る。

カマドは、北西壁中央に位置する。天井部は一部残存しており（第10図10・11層）、白色粘土を主体として、ローム粒子・焼土粒子を含む灰白色土・褐色土で構築されている。袖部は、両側とも残存している。ローム粒子・焼土粒子を含む灰黄褐色土（第10図14層）で構築され、天井部と繋がる。規模は、検出長最大0.72 m、検出幅最大0.47 m、高さは最大0.23 mを測る。火床面は、焚口部から煙道部に向かって緩やかに傾斜する底面の最も低い位置にある。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がったのち、煙出し部に向かってほぼ直角に立ち上がる。煙道部の直径は0.12 m程と推定される。

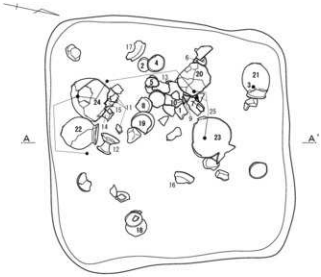
掘り方は、火床面手前と袖部下、煙道部下で確認され、それぞれ土坑状に浅く掘り込まれている。埋め土は、ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む暗褐色土・暗赤

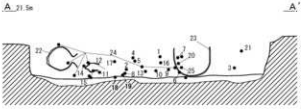




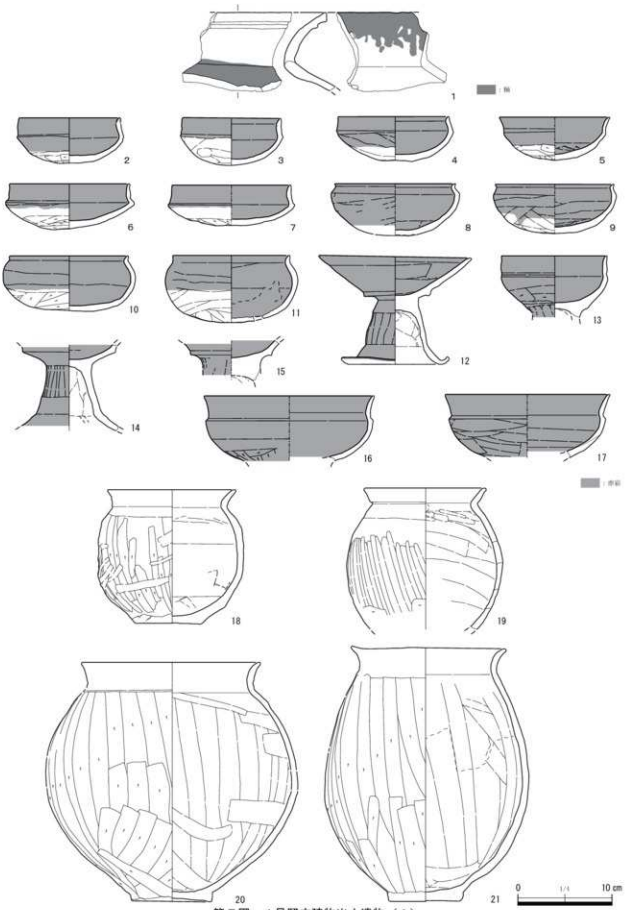
A-A'

	色調	締り	粘性	備考
1	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック(φ5～10mm)少量
2	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック(φ5～50mm)中量
3	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物微量
4	黒褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック(φ5～10mm)少量
5	黒褐色	普通	やや強い	ローム粒子中量　ロームブロック(φ5～20mm)中量 焼土粒子少量　炭化物少量

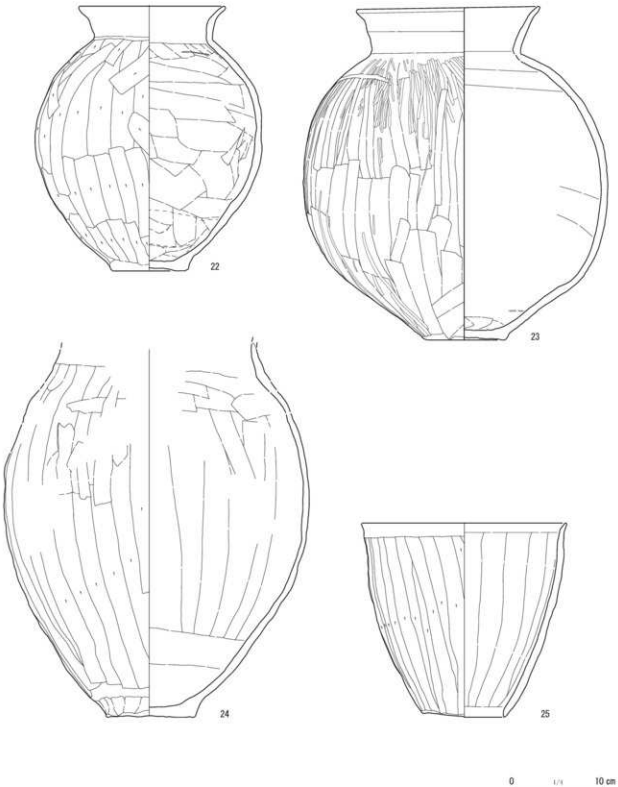




第６図　１号竪穴建物



第７図　１号竪穴建物出土遺物（１）



第８図　１号竪穴建物出土遺物（２）

第１表　１号竪穴建物出土遺物観察表（１）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
1	須恵器 甕	器高:[8.3]	白・長・石	内面：オリーブ黒 外面：オリーブ黒	還元焔	内面：口縁部横方向のナデ。胴部横方向のナデ。口縁部自然釉。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部横方向のナデ。胴部自然釉。	口縁部破片	覆土中層	
2	土師器 坏	口径:10.4 器高:4.8	長・チ・赤・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	完形	覆土下層	内面体部に痘粒状の剥離痕。
3	土師器 坏	口径:10.3 器高:5.1	長・チ・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	完形	覆土下層	内面体部に痘粒状の剥離痕。
4	土師器 坏	口径:11.5 器高:4.8	長・チ・角	内面：赤褐 外面：赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ。 外面口縁部・内面赤彩。	ほぼ完形	覆土中層	
5	土師器 坏	口径:11.4 器高:4.6	長・チ・赤・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	60%	覆土下層	
6	土師器 坏	口径:12.6 器高:4.9	長・チ・石	内面：赤 外面：にぶい赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	80%	床	
7	土師器 坏	口径:(12.7) 器高:[4.3]	長・赤・石	内面：赤 外面：明赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	50%	覆土中層	内面体部にコゲ付着。
8	土師器 坏	口径:(12.8) 器高:[5.5]	長・赤・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	50%	床	
9	土師器 坏	口径:(12.6) 器高:[5.2]	長・角・石・赤	内面：赤 外面：赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部・体部横方向のナデ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	80%	覆土下層 ～床	
10	土師器 坏	口径:12.4 器高:5.9	長	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部ナデ、体部横・斜方向のケズリ後、上半横方向のナデ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	完形	床	外面体部に痘粒状の剥離痕。
11	土師器 埦	口径:(12.3) 器高:7.1	長・赤	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ、体部横・斜方向のケズリ後、横方向のナデ。 外面口縁部・体部・内面赤彩。	50%	床	内面体部に二次被熱による痘粒状の剥離痕・ススス・発泡。坦塡カ。
12	土師器 高坏	口径:16.0 底径:9.7 器高:11.6	長・赤・片	内面：赤 外面：赤	良好	内面：坏部横方向のナデ。脚柱部斜方向のナデ、脚端部横方向のナデ。 外面：坏部横方向のナデ、脚柱部縦方向のナデ後、両端部横方向のナデ、脚端部横方向のナデ。 外面・内面坏部赤彩。	80%	覆土下層	内面坏部部分的に痘粒状の剥離痕。
13	土師器 高坏	口径:(11.1) 器高:[6.5]	長・赤・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：坏部横方向のナデ。脚柱部斜方向のナデ。 外面：坏部口縁部横方向のナデ。体部横方向のケズリ後、横方向のナデ。脚柱部縦方向のナデ。 外面・内面坏部赤彩。	坏部のみ完形	床	
14	土師器 高坏	器高:[9.1]	長・石・赤	内面：明赤褐 外面：にぶい赤褐	良好	内面：坏部横方向のナデ。脚柱部縦・斜方向のナデ。 外面：坏部横方向のナデ。脚柱部縦方向のナデ後、下端部横方向のナデ、脚端部横方向のナデ。 外面・内面坏部赤彩。	脚部	覆土下層	

第２表　１号竪穴建物出土遺物観察表（２）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
15	土師器 高坏	器高:[4.5]	長・チ	内面:にぶい赤褐 外面:にぶい赤褐	普通	内面:坏部横方向のナデ。脚柱部斜方向のナデ。 外面:坏部横方向のナデ。脚柱部縦方向のナデ。 外面・内面坏部赤彩。	脚部破片	床	
16	土師器 鉢	口径:(17.3) 器高:[6.9]	長・凝・白・赤	内面:赤 外面:赤	良好	内面:口縁部横方向のナデ。体部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。体部縦・斜方向のケズリ後、上半横方向のナデ。 外内面赤彩。	40%	覆土下層	内面体部に疱粒状の剥離痕。
17	土師器 鉢	口径:(17.2) 器高:[6.5]	白・長・チ・赤	内面:赤 外面:赤	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。体部横・斜方向のナデ。 外内面赤彩。	40%	覆土下層	内外面体部に帯状のスス付着後、疱粒状の剥離痕。
18	土師器 小型甕	口径:13.5 底径:6.9 器高:14.3	白・長・赤・石	内面:にぶい橙 外面:にぶい赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部斜・横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部横方向のナデ後、縦方向のケズリ、横方向のナデ。底面ケズリ。	完形	床	
19	土師器 小型甕	口径:12.6 器高:[13.0]	白・赤・チ・長	内面:にぶい赤褐 外面:赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部ナデ後、縦方向のナデ、横方向のケズリ。	60%	床	内面胴部に疱粒状の剥離痕。
20	土師器 甕	口径:18.8 底径:8.2 器高:25.4	チ・赤	内面:明赤褐 外面:明赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・縦方向のナデ。底部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦・斜方向のケズリ。底部ケズリ。	70%	覆土下層	
21	土師器 甕	口径:16.1 底径:7.5 器高:27.0	白・チ・赤	内面:明赤褐 外面:橙	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部斜・縦方向のナデ。底部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦・斜方向のケズリ。	90%	覆土中層	内面胴部に疱粒状の剥離痕。
22	土師器 甕	口径:15.4 底径:7.6 器高:28.0	チ・長・片・赤	内面:にぶい橙 外面:明赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。底部横・斜方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦・斜方向のケズリ。底面ナデ。	95%	覆土下層	内面胴部に疱粒状の剥離痕。下半に帯状のスス付着。
23	土師器 甕	口径:18.9 底径:8.3 器高:35.4	チ・赤・角・長	内面:明赤褐 外面:橙	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部斜・横方向のナデ。底部斜方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部ナデ後、縦方向のミガキ、縦・横方向のナデ。底面ナデ。	60%	床	
24	土師器 甕	底径:8.4 器高:[39.7]	チ・長・赤・石	内面:明赤褐 外面:にぶい赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。底部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部ナデ後、斜・縦方向のケズリ、縦・横方向のナデ。底部ユビオサエ。底面ナデ。	60%	覆土上層～床	内面胴部下半に疱粒状の剥離痕。外面胴部に疱粒状の剥離痕。
25	土師器 甑	口径:21.6 底径:8.6 器高:20.6	チ・長・赤	内面:明赤褐 外面:明赤褐	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のナデ。端部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部斜方向のケズリ。端部横方向のケズリ。	90%	覆土下層～床	

褐色土（第10図15～20層）からなる。

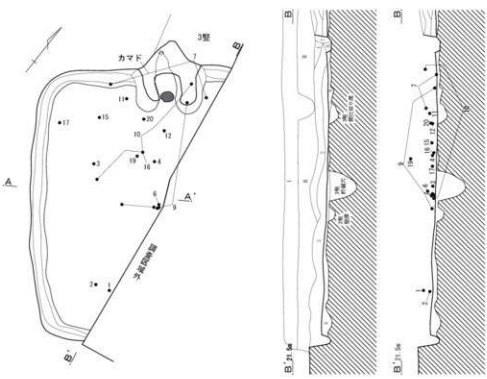
遺物は少ないが、土師器・石製品・縄文土器がみられた。覆土下層から床上にかけて出土し、建物内中央からカマド周囲にかけて散在していた。特に土師器甕は、カマドの周囲から出土しただけでなく、カマド袖部の構築材にも利用されていた。縄文土器は、カマド袖崩落土からみられ、カマド構築過程で流入したものと思われる。出土した遺物から、土師器坏7点（第11図1～7）・土師器甕6点（第11図8～13）・土師器台付甕1点（第11図14）・土師器小型甑（第11図15）・土師器甑1点（第11図16）・ミニチュア土器3点（第12図17～19）・縄文土器1点（第12図20）・石製品1点（第12図21）を掲載した。1・3・5～7の坏は、内外面に赤色塗彩されている。17～19は、完形のミニチュア土器である。17・18は内外面に赤色塗彩されている。20は、縄文土器の破片で、外面に同心円状の沈線文が施されている。縄文時代後期前葉に位置づけられる堀之内式土器の胴部片と考えられる。21は、閃緑岩製の砥石で、側辺に孔があけられている。

本建物の時期は、出土遺物の特徴と重複関係から、7世紀中葉に比定される。

3号竪穴建物（第13・14図　第5表　図版3・11）

調査区中央東寄りに所在する。全体の1／4を検出し、残る3／4は調査区域外である。南西側が2号竪穴建物と重複し、本遺構が古いことが確認されている。

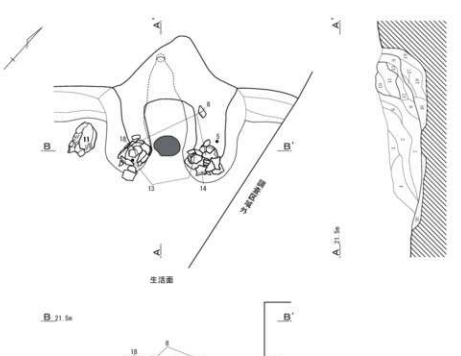
平面形状は、隅丸長方形を呈していると推定される。規模は、検出された範囲で長軸5.58 m、



A-A' B-B'

	色調	締り	粘性	備考	
1	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量	
2	黒褐色	普通	普通	ローム粒子微量	ローム ブロック（φ5～10mm）少量
3	黒褐色	普通	普通	ローム粒子中量	炭化物微量
4	黒褐色	普通	普通	ローム粒子中量	焼土粒子少量　炭化物微量
5	黒褐色	普通	普通	ローム粒子中量	焼土粒子少量　焼土ブロック（φ5～10mm）微量 炭化物微量
6	黒褐色	普通	普通	ローム粒子微量	ローム ブロック（φ5～10mm）少量
7	黒褐色	普通	普通	ローム粒子微量	ローム ブロック（φ5～10mm）微量
8	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量	ローム ブロック（φ5～20mm）多量
9	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体	ローム ブロック（φ5～40mm）多量

第9図　2号竪穴建物



A-A' B-B'

	色調	締り	粘性	備考
1	灰黄褐色	普通	やや弱い	ローム粒子微量　焼土粒子微量
2	暗褐色	やや弱い	普通	ローム粒子少量
3	暗褐色	やや弱い	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～10mm）少量
4	暗褐色	普通	やや弱い	ローム粒子微量
5	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～10mm）少量
6	暗褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～10mm）少量　小礫微量
7	赤褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子少量　焼土粒子多量　焼土ブロック（φ5～10mm）中量
8	褐色	普通	やや弱い	焼土粒子微量
9	暗褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子中量
10	灰白色	普通	普通	白色粘土主体　ローム粒子少量　焼土粒子少量
11	褐色	普通	普通	焼土粒子中量
12	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子少量
13	褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子中量
14	灰黄褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子中量
15	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）中量
16	暗褐色	普通	やや弱い	焼土粒子少量　焼土ブロック（φ5～10mm）中量
17	暗褐色	普通	普通	焼土粒子少量
18	暗赤褐色	普通	普通	焼土粒子多量　ローム粒子微量
19	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）中量
20	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）多量　焼土粒子微量

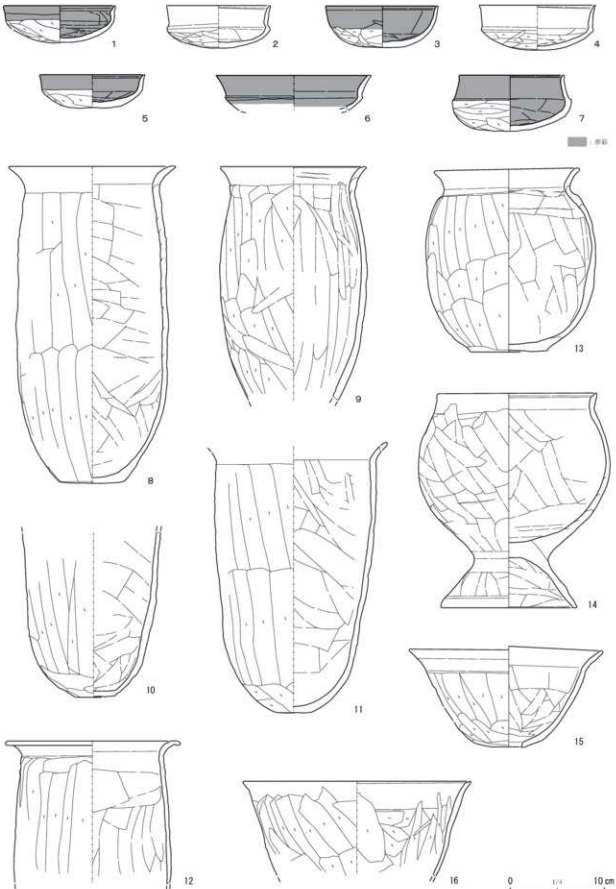
第 10 図　２号竪穴建物カマド

短軸 1.62 m、床面までの深さは 0.26 mを測る。主軸は、N-71°-Eである。

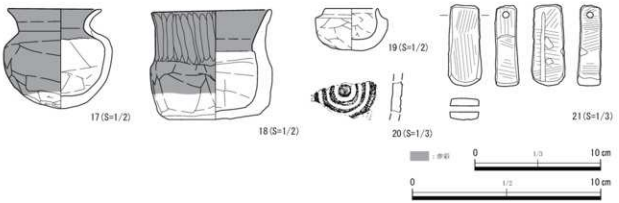
覆土は、７層に分層される。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土・黒褐色土からなり、レンズ状堆積を呈する。２・３・６層には、炭化物が僅かにみられる。

壁溝は、西壁南半を除き、確認されている。規模は、幅 0.15 ～ 0.26 m、深さ 0.12 ～ 0.14 m を測り、断面形状は逆台形を呈する。建物内には、壁溝とは別に、東西方向に延びる溝が２条検出されている。両溝とも、西端は壁溝または建物壁の手前で立ち上がり、東側は調査区域外まで延びている。規模は、検出長 0.86 ～ 1.06 m、検出幅 0.27 ～ 0.38 m、深さ最大 0.30 mを測る。配置から、間仕切り溝と推定される。

柱穴は、２基（Ｐ１・２）検出されている。Ｐ



第 11 図　2 号竪穴建物出土遺物（1）



第 12 図　２号竪穴建物出土遺物（２）

第３表　２号竪穴建物出土遺物観察表（１）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
1	土師器 坏	口径:11.7 器高:4.0	チ・長・白	内面:橙 外面:赤	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	70%	覆土下層	
2	土師器 坏	口径:10.9 器高:4.5	チ・白・長	内面:明赤褐 外面:明赤褐	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。	70%	床	
3	土師器 坏	口径:11.8 器高:4.4	チ・長・白	内面:にぶい赤褐 外面:にぶい赤褐	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	ほぼ完形	床	内外面二次被熱。
4	土師器 坏	口径:12.1 器高:4.8	チ・白・長・石	内面:灰黄褐 外面:灰黄褐	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。	60%	床	内外面二次被熱。
5	土師器 坏	口径:(10.9) 器高:3.6	チ・長・白	内面:赤褐 外面:赤	普通	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	25%	カマド袖	
6	土師器 坏	口径:(16.1) 器高:[3.7]	チ・長・白	内面:赤 外面:赤	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部ケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁部破片	覆土下層	
7	土師器 坏	口径:11.0 器高:5.9	チ・長・白	内面:赤 外面:赤	良好	内面:横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	80%	覆土下層～床	外面に黒斑。
8	土師器 甕	口径:(17.5) 底径:6.9 器高:33.3	長・チ・白・赤	内面:明赤褐 外面:明赤褐	良好	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。底部ケズリ。	30%	カマド袖	外面胴部にススス、内面胴部にコゲ付着。
9	土師器 甕	口径:15.2 器高:[24.7]	チ・長・白	内面:明赤褐 外面:明赤褐	良好	内面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ後、下位斜方向のナデ。	口縁～胴部30%	カマド袖～床	
10	土師器 甕	底径:4.2 器高:[17.9]	チ・長・白・石	内面:明赤褐 外面:明赤褐	良好	内面:底部から胴部下位に横・斜方向のナデ。 外面:胴部縦方向のケズリ後、下位斜・横方向のケズリ。底部ケズリ。	胴部下半40%	カマド袖～床	
11	土師器 甕	底径:(3.8) 器高:[28.2]	チ・長・白	内面:にぶい赤褐 外面:にぶい橙	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部斜・横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ、下位斜・横方向のケズリ。底部ケズリ。	胴部60%	床	外面胴部にススス付着。

第４表　２号竪穴建物出土遺物観察表（２）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
12	土師器 甕	口径:(17.8) 器高:[15.1]	長・チ・ 白・凝	内面：明赤褐 外面：明赤褐	良好	内面：口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。	口縁～ 胴部 25%	床	
13	土師器 甕	口径:14.9 底径:8.1 器高:19.4	チ・長・ 白	内面：明赤褐 外面：赤	普通	内面：口縁部横方向のナデ。胴部斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部斜方向のナデ。底部ケズリ後、ナデ。	90%	カマド袖	外面胴部にススス付着。
14	土師器 台付甕	口径:16.7 底径:14.3 器高:22.8	チ・白・ 長	内面：灰褐 外面：橙	普通	内面：口縁部横方向のナデ。胴部斜・横方向のナデ。台部横・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部斜方向のナデ。台部縦方向のナデ。接合部横方向のナデ。台端部横方向のナデ。	90%	カマド袖	外面にススス、内面胴部にコゲ付着。
15	土師器 小型甑	口径:20.1 底径:3.4 器高:10.6	長・チ・ 白	内面：赤 外面：明赤褐	良好	内面：口縁～胴部上位横方向のナデ。胴部横方向のナデ後、縦・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。	ほぼ 完形	床	外面に黒斑。
16	土師器 甑	口径:(24.0) 器高:[10.0]	チ・長・ 白・石	内面：明赤褐 外面：にぶい赤褐	良好	内面：口縁部横方向のナデ。胴部斜・縦方向のケズリ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部斜方向のケズリ。	口縁～ 胴部 20%	床	外面にススス、内面にコゲ付着。
17	土師器 ミニチュア	口径:4.3 器高:5.3	長・チ・ 白	内面：赤 外面：赤	良好	内面：口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部ケズリ後、斜方向のナデ。 外面口縁部～胴部・内面口縁部赤彩。	完形	床	
18	土師器 ミニチュア	口径:6.1 底径:4.7 器高:5.8	チ・長・ 白・赤	内面：赤褐 外面：赤褐	良好	内面：口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、ミガキ。胴部斜方向のナデ。底部ナデ。 外面口縁部～胴部・内面口縁部赤彩。	ほぼ 完形	カマド袖	
19	土師器 ミニチュア	口径:2.7 器高:2.2	長・白・ 石	内面：明赤褐 外面：明赤褐	良好	内面：斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。体部斜方向のナデ。	ほぼ 完形	覆土上層	
20	縄文土器 深鉢	－	白・角・ 石	内面：にぶい橙 外面：暗褐	良好	多条沈線回心円文。	胴部 破片	カマド袖	堀之内１式。
21	石製品 砥石	長:6.42 幅:2.68 厚:1.92 重:50.8	閃緑岩			方柱状の側辺に垂下用の紐を通す孔を穿つ。表裏面・両側面に平滑な研磨痕があり、表面には筋状の研磨痕もある。下端面には敲打痕がある。	ほぼ 完形	覆土	

１の規模は、検出された範囲で長軸 0.30 m、短軸 0.12 m、深さ 0.30 m、Ｐ２は長軸 0.66 m、短軸 0.46 m、深さ 0.35 m を測る。Ｐ１は間仕切り溝を切って掘り込んでいる。配置から、Ｐ１は主柱穴、Ｐ２は出入口ピットと推定される。

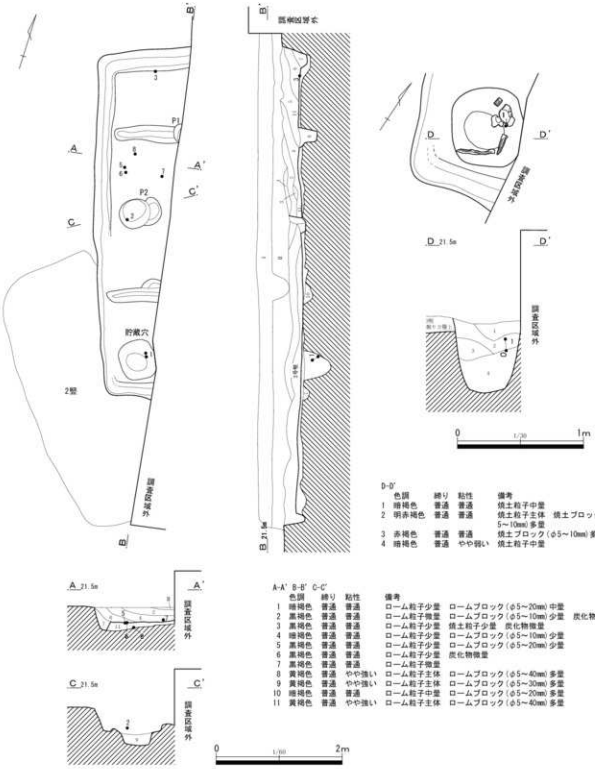
貯蔵穴は、南西隅に位置する。平面形状は隅丸長方形で、断面形状は逆台形を呈する。規模は、長軸 0.63 m、短軸 0.57 m、深さ 0.61 m を測る。覆土は、焼土粒子を含む暗褐色土・赤褐色土からなり、上層には多量の焼土ブロックが混じる。中層からは炭化材が出土している。

床面は貼床で、掘り方をローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土（第 13 図 11 層）で埋め戻して構築している。概ね平坦であるが、中央に向かって緩やかに窪む。顕著な硬化面は認められなかったが、全体的によく締まる。

掘り方は、床下全面で検出された。底面には大小の起伏が認められる。床面からの深さは、最大で 0.19 m を測る。

炉またはカマドは、検出されていない。

遺物は少ないが、土師器・土製品・鉄製品がみられた。覆土下層から床上にかけて出土し、柱穴内や貯蔵穴内からも検出されている。出土した遺物から、土師器高坏１点（第 14 図１）・土師器



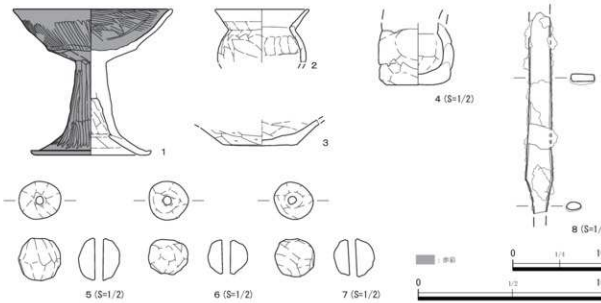
D-D'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	焼土粒子中量
2	明赤褐色	普通	普通	焼土粒子主体　焼土ブロック(φ5～10mm)多量
3	赤褐色	普通	普通	焼土ブロック(φ5～10mm)多量
4	暗褐色	普通	やや弱い	焼土粒子中量

A-A' B-B' C-C'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック(φ5～20mm)中量
2	黒褐色	普通	普通	ローム粒子微量　ロームブロック(φ5～10mm)少量　炭化物微量
3	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物微量
4	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック(φ5～10mm)少量
5	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック(φ5～20mm)少量
6	黒褐色	普通	普通	ローム粒子少量　炭化物微量
7	黒褐色	普通	普通	ローム粒子微量
8	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ロームブロック(φ5～40mm)多量
9	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ロームブロック(φ5～30mm)多量
10	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック(φ5～20mm)多量
11	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ロームブロック(φ5～40mm)多量

第 13 図　3号竪穴建物



第 14 図　3 号竪穴建物出土遺物

第 5 表　3 号竪穴建物出土遺物観察表

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
1	土師器 高坏	口径:16.8 底径:(11.7) 器高 15.5	チ・長・白	内面:暗赤褐 外面:明赤褐	良好	内面:坏部ナデ後、横・斜方向のミガキ。脚柱部ユビナデ。脚端部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。坏部上半ナデ後、縦方向のミガキ。下半縦方向のナデ。脚柱部横方向のナデ後、タテ方向のミガキ。脚端部横方向のナデ。 外面・内面坏部赤彩。	80%	貯蔵穴	内外面二次被熱。内面坏部に煤痕状の剥離痕。
2	土師器 坦	口径:(9.7) 器高:[5.6]	チ・長・白・石	内面:明赤褐 外面:にぶい黄橙	良好	内面:口縁部横方向のナデ。肩部横方向のナデ、指頭押圧。 外面:口縁部横方向のナデ。頸部縦方向のナデ。胴部斜方向のナデ。	口縁～胴部 25%	P2	
3	土師器 甕	底径:6.0 器高:[2.7]	白・長・石	内面:黒褐 外面:にぶい橙	普通	内面:横方向のナデ。 外面:横方向のケズリ。底部ケズリ後ナデ。	底部ほぼ完形	床	内面にコゲ付着。
4	土師器 ミニチュア	底径:2.8 器高:[3.3]	チ・白・石	内面:赤褐 外面:赤褐	普通	内面:頸部横方向のナデ。胴部斜方向のナデ。 外面:指頭押圧後、ナデ。	頸～底部ほぼ完形	P2	
5	土製品 土錘	長:2.3 径:2.1～2.4 孔径:0.45 重:11.3	チ・白・石	にぶい橙	普通	ナデ整形。	完形	床	
6	土製品 土錘	長:1.85 径:2.0～2.1 孔径:0.4 重:6.9	白・石	にぶい黄橙	普通	ナデ整形。	完形	床	外面に黒斑。
7	土製品 土錘	長:1.95 径:1.9～2.1 孔径:0.45 重:8.2	白・石	にぶい黄橙	普通	ナデ整形。孔は長方形。	完形	床	
8	鉄製品 鑿ヵ	長:[10.6] 身幅:1.3 身厚:0.4 重:22.8				断面楕円形の茎を木柄に差し込んで使用する突鑿であろう。身は断面長方形で、刃先が欠けている。	刃先・茎元欠損	床下	錆で剥離して膨らむ。

坩１点（第14図２）・土師器甕１点（第14図３）・ミニチュア土器１点（第14図４）・土製品３点（第14図５～７）・鉄製品１点（第14図８）を掲載した。１の高坏は、外面と坏部内面に赤色塗彩されている。５～７は球状の土錘で、ナデ整形が丁寧に施されている。８は、形状から鑿と考えられる。

本建物の時期は、出土遺物の特徴と重複関係から、５世紀前葉に比定される。

４号竪穴建物（第15～18図　第６・７表　図版３・４・12～15）

調査区中央西側に所在する。全体の３／４を検出し、残る１／４は調査区域外である。建物北西部分とカマドの一部が後世の掘削により、削平を受ける。

平面形状は、隅丸方形を呈する。規模は、長軸5.01 m、短軸4.84 m、床面までの深さは0.57 mを測る。主軸は、N-58°-Wである。

覆土は、21層に分層される。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土からなり、レンズ状堆積を呈する。２・６～８・11・12・15～17層には、炭化物・焼土粒子が僅かにみられる。13層は、炭化した木材である。

壁溝は、カマドと南西隅を除き、全周する。規模は、幅0.17～0.21 m、深さ0.15～0.17 mを測る。断面形状は、逆台形を呈する。

柱穴は、１基（Ｐ１）検出されている。規模は、長軸0.35 m、短軸0.31 m、深さ0.16 mを測る。

貯蔵穴は、北東隅に位置する。平面形状は楕円形で、断面形状は逆台形を呈する。規模は、長軸0.70 m、短軸0.62 m、深さ0.39 mを測る。覆土は、ローム粒子・ロームブロック・炭化物を含む暗褐色土からなる。

床面は貼床で、掘り方をローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土（第15図22層）で埋め戻して構築している。概ね平坦で、顕著な硬化面は認められなかったが、全体的によく締まる。

掘り方は、床下全面で検出された。底面には細かい起伏が認められ、所々で土坑状に浅く窪む。床面からの深さは、最大で0.18 mを測る。

カマドは、北西壁中央に位置する。調査範囲の制約から、天井部・袖部は認識できていない。火床面は、被熱痕跡が明確でないため、不明である。ただし、６層直上に土製支脚（第16図22）が正位の状態で検出されていることから、６層上面が火床面であった可能性がある。煙道部は、急角度で立ち上がる。上端は後世の削平を受けており、不明である。

掘り方は、底面から急角度で立ち上がる。土製支脚の位置から、６層が掘り方覆土に相当すると思われる。

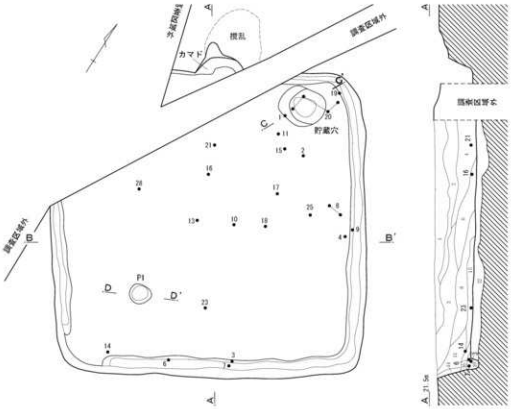
遺物は多く、土師器・須恵器・土製品・石製品がみられた。覆土上層から床上にかけて出土し、カマド内や貯蔵穴内からも検出されている。土師器坩や甕・甑、須恵器坏蓋などは建物内中央からカマド周囲、土師器坏や小型壺、土製品は北東壁・南東壁際で確認されている。出土した遺物から、須恵器坏蓋１点（第17図１）・須恵器甕１点（第17図２）・土師器坏10点（第17図３～12）・土師器高坏１点（第17図13）・土師器小型壺１点（第17図14）・土師器坩１点（第17図15）・土師器小型甕１点（第17図16）・土師器甕４点（第17図17～20）・土師器甑１点（第18図21）・土製品４点（第18図22～25）・石製品４点（第18図26～29）を掲載した。１～９・11・12の坏は、内外面に赤色塗彩されている。22は土製の支脚である。上面に木葉痕がみられる。23～25は土錘である。23は管状、24・25は球状を呈する。26は石製紡錘車である。全面を丁寧に研磨したのち、放射状の条線が施される。27は砂岩製の砥石である。28は有孔円板、29は剣形の石製品で、石材はともに結晶片岩である。

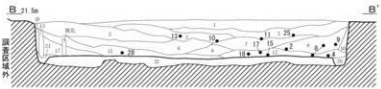
本建物の時期は、出土遺物の特徴と遺構の形状から、７世紀後葉～末葉に比定される。

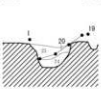
５号竪穴建物（第19・20図　第８表　図版４・15）

調査区南壁中央に所在する。全体の１／４を検出し、残る３／４は調査区域外である。北壁が１号土坑と重複し、本遺構が古い。

平面形状は、隅丸方形を呈していると推定される。規模は、検出された範囲で長軸4.00 m、



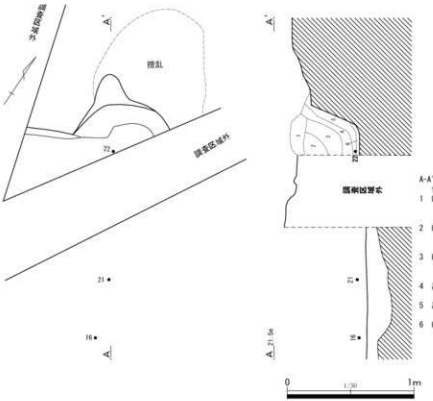




A-A' B-B' C-C' D-D'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～40mm）少量
2	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　炭化物微量　焼土粒子微量
3	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）中量　炭化物微量
4	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）微量
5	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　ロームブロック（φ5～10mm）少量
6	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）少量　炭化物微量
7	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）少量　炭化物微量
8	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　ロームブロック（φ5～40mm）中量　焼土粒子微量　炭化物微量
9	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）微量
10	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～10mm）微量
11	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～10mm）少量　焼土粒子微量　炭化物微量
12	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～20mm）中量　炭化物微量
13	暗褐色	普通	やや弱い	ローム粒子微量　焼土粒子中量　炭化物多量　長約20cmの炭化木材含む
14	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　ロームブロック（φ5～10mm）微量
15	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　炭化物微量
16	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　焼土粒子多量　炭化物少量
17	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　焼土粒子微量　炭化物微量
18	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　ロームブロック（φ5～10mm）微量
19	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～10mm）微量
20	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　ロームブロック（φ5～30mm）中量
21	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　ロームブロック（φ5～20mm）中量
22	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ロームブロック（φ5～40mm）多量
23	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～20mm）少量
24	暗褐色	普通	普通	ロームブロック（φ5～20mm）少量　炭化物微量
25	褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子微量
26	褐色	やや弱い	普通	ローム粒子中量
27	黄褐色	普通	やや弱い	ローム粒子多量

第 15 図　4 号竪穴建物



	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量 灰白色粘土ブロック（φ10～20mm）少量
2	暗赤褐色	やや弱い	やや弱い	焼土粒子中量 焼土ブロック（φ10～20mm）中量
3	暗赤褐色	やや弱い	やや弱い	焼土粒子中量 焼土ブロック（φ10～20mm）中量
4	黒褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子微量 焼土粒子中量
5	黒褐色	やや弱い	やや弱い	ローム粒子少量 焼土粒子中量
6	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量 ローム ブロック（φ20～50mm）少量 焼土粒子微量

第 16 図　4 号竪穴建物カマド

短軸 2.11 m、床面までの深さは 0.52 mを測る。主軸は、N- 7 ° -W である。

覆土は、9 層に分層される。ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土からなる。

壁溝は、カマドを除き、確認されている。規模は幅 0.19 m、深さ 0.09 mを測り、断面形状は逆台形を呈する。

柱穴は、1 基（P 1）検出されている。規模は、長軸 0.54 m、短軸 0.34 m、深さ 0.34 mを測る。

床面は貼床で、掘り方をローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土（第 19 図 10・11 層）で埋め戻して構築している。概ね平坦であるが、西壁から中央に向かって、緩やかに傾斜する。顕著な硬化面は認められていないが、全体的によく締まる。

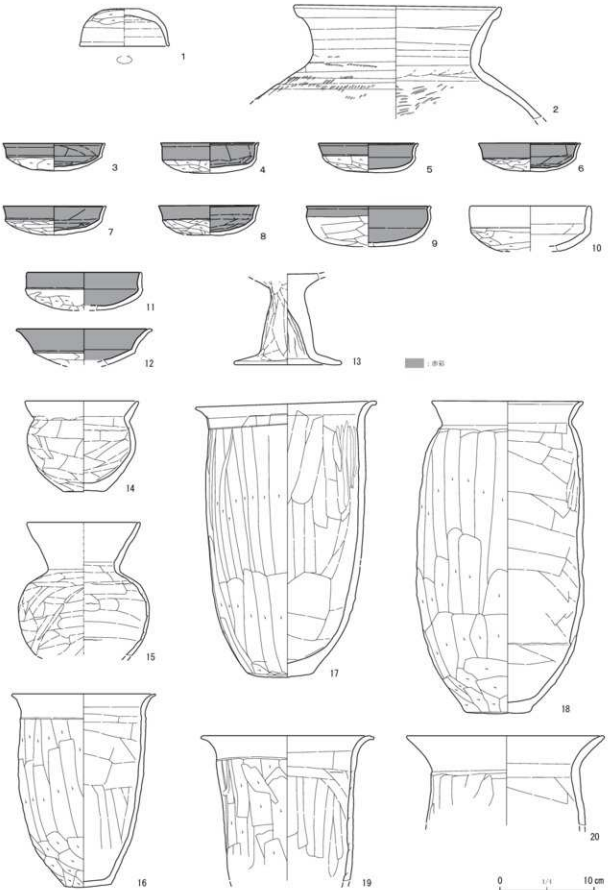
掘り方は、床下全面で検出された。底面には細かい起伏が認められる。床面からの深さは、最大で 0.19 mを測る。

カマドは、北壁に位置する。後世の掘削により、燃焼部から煙道部までの上部と袖部の一部が削平を受けている。天井部は、確認されていない。袖部は、両側とも一部残存している。白色粘土を主体として、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土（7 ～ 11 層）で構築されている。規模は、検出長最大 0.86 m、検出幅最大 0.34 m、高さ最大 0.23 mを測る。火床面は、燃焼部中央からやや煙道部に寄った位置にある。煙道部は、急角度で立ち上がる。

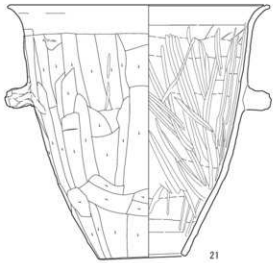
掘り方は、焚口部から煙道部まで確認された。焚口部から火床面までを土坑状に浅く掘り込んでいる。埋め土は、ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土・黄褐色土（12・13 層）からなる。

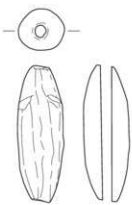
遺物は少なく、土師器のみがみられた。覆土中層から床上にかけて出土し、カマド周囲や壁際に散在している。出土した土師器甕（第 20 図 5）は、カマド袖部の構築材として使用されていた。出土した遺物から、土師器坏 3 点（第 20 図 1 ～ 3）・土師器甕 3 点（第 20 図 4 ～ 6）を掲載した。1 ～ 3 の坏は、内外面に赤色塗彩されている。また、2 は内外面に二次被熱を受けている。

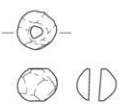
本建物の時期は、出土遺物の特徴と遺構の形状から、7 世紀後葉～末葉に比定される。

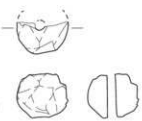


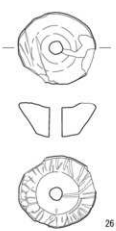
第 17 図　4 号竪穴建物出土遺物（1）

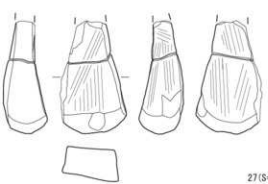


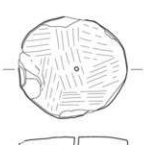


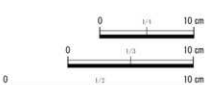












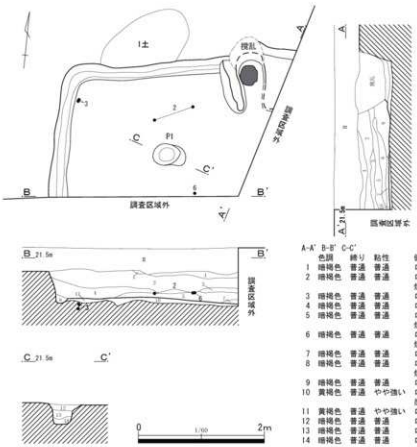
第18図　４号竪穴建物出土遺物（２）

第６表　４号竪穴建物出土遺物観察表（１）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
1	須恵器 坏蓋	口径:(9.2) 器高:4.0	長・針・石・チ	内面：オリーブ灰 外面：オリーブ灰	還元焔	左回転ロクロ成形。 天井部手持ちケズリ。	45%	床	南比企産。
2	須恵器 甕	口径:21.5 器高:[12.1]	長・白・針・チ・石	内面：灰オリーブ 外面：灰白	還元焔	内面：口縁部ナデ。頸部同心円文当て具後、ナデ。 外面：口縁部ナデ。頸部平行文タタキ後、ナデ。	口縁～頸部60%	覆土下層	南比企産。
3	土師器 坏	口径:10.5 器高:2.9	チ・長・赤・白・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	完形	覆土下層	
4	土師器 坏	口径:10.1 器高:3.2	チ・凝・白・長・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	完形	床	
5	土師器 坏	口径:10.5 器高:3.1	チ・長・赤・白・石	内面：明赤褐 外面：にぶい赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	完形	覆土下層	外面体部に黒斑。 内面体部に痕状の剥離痕。
6	土師器 坏	口径:10.5 器高:3.1	チ・長・白・石	内面：明赤褐 外面：にぶい赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	完形	覆土下層	内外面に黒斑。
7	土師器 坏	口径:10.6 器高:3.1	チ・白・石	内面：にぶい褐 外面：明赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	80%	覆土下層	外面体部に黒斑。
8	土師器 坏	口径:10.4 器高:3.2	チ・白・石	内面：赤褐 外面：赤褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	90%	覆土下層～床	外面体部に黒斑。
9	土師器 坏	口径:(13.0) 器高:[4.3]	長・白・チ・石	内面：赤 外面：赤	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部破片	覆土下層	内面体部に痕状の剥離痕。
10	土師器 坏	口径:(12.5) 器高:[4.8]	チ・長・白・石	内面：明赤褐 外面：明赤褐	普通	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。	口縁～体部破片	覆土中層	
11	土師器 坏	口径:(12.0) 器高:[4.0]	長・白・石	内面：黒 外面：黒褐	普通	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横・斜方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部破片	覆土中層	内外面にスス付着。
12	土師器 坏	口径:(13.8) 器高:[4.8]	チ・白・石	内面：にぶい赤褐 外面：褐	良好	内面：横方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ後、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部破片	覆土	
13	土師器 高坏	底径:[11.0] 器高:[9.7]	チ・長・針・白・石	内面：にぶい褐 外面：橙	普通	内面：体部ナデ。脚柱部絞り目。脚端部ナデ。 外面：体～脚部縦方向のヘラナデ。	脚部	覆土下層	
14	土師器 小型壺	口径:[11.8] 底径:4.3 器高:9.6	長・チ・石・白	内面：明赤褐 外面：にぶい赤褐	普通	内面：口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部ケズリ後、横・斜方向のナデ。	ほぼ完形	覆土下層	外面に黒斑。 外面にスス付着。
15	土師器 坦	口径:(11.8) 器高:[14.1]	長・チ・石・白	内面：橙 外面：にぶい橙	普通	内面：口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部ケズリ後、横・斜方向のナデ。	口縁～胴部50%	床	内外面に黒斑。
16	土師器 小型壺	口径:15.1 底径:4.9 器高:20.5	長・チ・白・黒・石	内面：明赤褐 外面：橙	普通	内面：口縁部横方向のナデ。胴部上半横・斜方向のナデ。胴部下半縦方向のナデ。 外面：口縁部横方向のナデ。胴部縦・斜方向のヘラケズリ。底面ケズリ。	ほぼ完形	覆土下層	外面にスス付着。

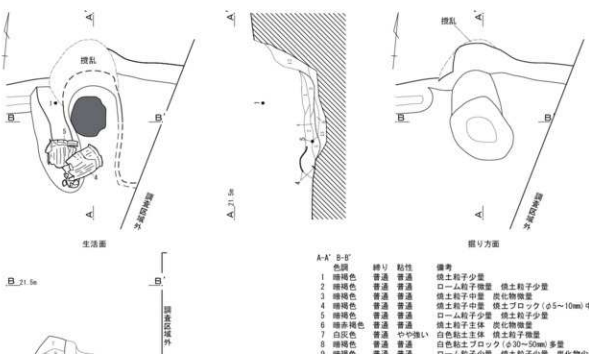
第７表　４号竪穴建物出土遺物観察表（２）

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
17	土師器 甕	口径:19.0 底径:6.8 器高:29.2	チ・白・ 長・石	内面:明赤褐 外面:にぶい赤褐	良好	内面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のナデ後、縦方向のミガキ、下位横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。底部ケズリ。	ほぼ完形	覆土下層	外面に薄くススが付着。
18	土師器 甕	口径:15.8 底径:6.6 器高:33.1	チ・長・ 白・石	内面:明赤褐 外面:橙	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ後、縦方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ後、下位斜・横方向のケズリ。底部ケズリ。	ほぼ完形	床	
19	土師器 甕	口径:18.0 器高:[15.4]	チ・長・ 白・石	内面:にぶい赤褐 外面:橙	普通	内面:口縁部横方向のナデ。胴部縦・斜方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。	上半部ほぼ完形	床	外面に薄くススが付着。
20	土師器 甕	口径:20.5 器高:[9.5]	チ・長・ 白・石	内面:橙 外面:にぶい橙	普通	内面:口縁～頸部横方向のナデ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ。	口縁部ほぼ完形	床・ 貯蔵穴	
21	土師器 甑	口径:27.3 底径:9.1 器高:27.0	チ・白・ 長・石	内面:明赤褐 外面:橙	良好	内面:口縁部横方向のナデ。胴部横方向のナデ後、縦・斜方向のミガキ。 外面:口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ後、中位横方向のケズリ。把手貼付後、ナデ。	ほぼ完形	覆土下層	外面に黒斑。
22	土製品 支脚	上径:6.3 下径:11.6 器高:14.2	チ・長・ 白・石	内面:橙 外面:にぶい褐	良好	内面:粘土紐積み上げ痕。下端部横方向のナデ。 外面:体部縦方向のナデ。下端部横方向のナデ。上面木葉痕。	ほぼ完形	カマド内	外面二次被熱。
23	土製品 土錘	長:7.8 径:2.2～2.3 孔径:0.6 重:39.2	チ・白・ 石・長	灰黄褐	良好	ナデ整形。	完形	床	
24	土製品 土錘	長:1.7 径:2.0～2.1 孔径:0.5～0.6 重:7.0	チ・長・ 白・石	にぶい赤褐	良好	ナデ整形。	完形	覆土	
25	土製品 土錘	長:2.3 径:2.7 孔径:0.6 重:10.3	チ・長・ 白・石	橙	良好	ナデ整形。	50%	覆土中層	外面に黒斑。
26	石製品 紡錘車	上径:3.8～4.1 下径:2.3 器高:1.8 孔径：0.7 重:33.7	滑石 片岩			全面丁寧な研磨後、斜面に放射状条線。	ほぼ完形	覆土	
27	石製品 砥石	長:[9.0] 幅:[5.2] 厚:2.6 重:157.4	砂岩			表裏面および側面の砥面に平滑な摩耗痕。片側の側面・端面が欠損。	上部欠損	覆土	
28	石製品 有孔円板	径：5.4～5.7 厚:0.9 孔径:0.2 重:5.05	結晶 片岩			全面粗い研磨。	ほぼ完形	覆土下層	
29	石製品 剣形 石製品	長:[5.0] 幅:2.2 厚:0.4 重:7.2	結晶 片岩			全面丁寧な研磨。表面に錆の表現。	ほぼ完形	覆土	



A-A' B-B' C-C'

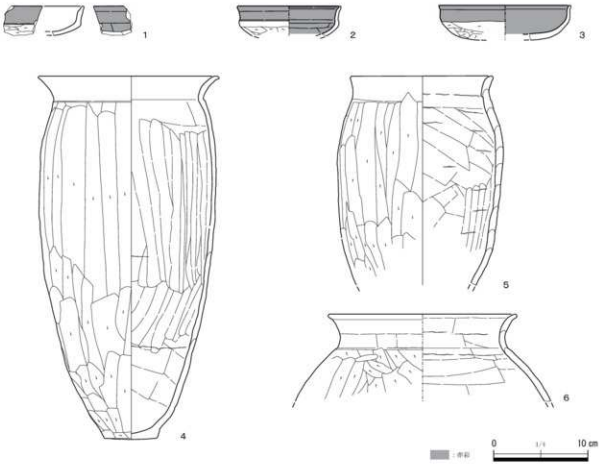
	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量
2	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ローム ブロック（φ5～10mm）微量 焼土粒子少量
3	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　焼土粒子少量　炭化物微量
4	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　炭化物微量
5	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ローム ブロック（φ5～10mm）少量 焼土粒子中量
6	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　ローム ブロック（φ5～10mm）微量 焼土粒子中量　炭化物中量
7	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子微量
8	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ローム ブロック（φ5～10mm）微量 焼土粒子少量
9	暗褐色	普通	普通	ローム粒子多量　ローム ブロック（φ5～30mm）中量
10	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ローム ブロック（φ5～20mm）多量 炭化物微量
11	黄褐色	普通	やや強い	ローム粒子主体　ローム ブロック（φ5～40mm）多量
12	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　炭化物微量
13	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ローム ブロック（φ5～10mm）少量
14	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ローム ブロック（φ5～20mm）中量



A-A' B-B'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	焼土粒子少量
2	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　焼土粒子少量
3	暗褐色	普通	普通	焼土粒子中量　炭化物微量
4	暗褐色	普通	普通	焼土粒子中量　焼土ブロック（φ5～10mm）中量
5	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子少量
6	暗赤褐色	普通	普通	焼土粒子主体　炭化物微量
7	白灰色	普通	やや強い	白色粘土主体　焼土粒子微量
8	暗褐色	普通	普通	白色粘土ブロック（φ30～50mm）多量
9	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子少量　炭化物少量
10	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　焼土粒子少量　炭化物微量
11	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　焼土粒子微量
12	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量　焼土粒子少量　炭化物微量
13	黄褐色	普通	普通	ローム粒子主体　焼土粒子微量

第19図　5号竪穴建物・カマド



第 20 図　5 号竪穴建物出土遺物

第 8 表　5 号竪穴建物出土遺物観察表

番号	器種	法量	含有物	色調	焼成	技法・その他	残存	出土位置	備考
1	土師器 坏	器高 :[3.1]	白・黒・石	内面 : 赤 外面 : 赤	良好	内面 : 横方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部破片	覆土上層	
2	土師器 坏	口径 :(10.8) 器高 :[2.2]	チ・白・石	内面 : 赤 外面 : 黒褐	良好	内面 : 横方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部 30%	覆土下層	内外面二次被熱。
3	土師器 坏	口径 :(13.8) 器高 :[3.7]	チ・長・白・石	内面 : 赤 外面 : 赤	良好	内面 : 横方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ、体部横方向のケズリ。 外面口縁部・内面赤彩。	口縁～体部 20%	床	
4	土師器 甕	口径 :18.8 底径 :5.5 器高 :38.4	チ・凝・長・白・石	内面 : 明赤褐 外面 : 明赤褐	良好	内面 : 口縁部横方向のナデ。胴部横・斜方向のナデ後、縦方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のケズリ後、下位斜・横方向のケズリ。底部ケズリ。	ほぼ完形	カマド袖	外面に黒斑。
5	土師器 甕	口径 :14.9 器高 :[22.1]	チ・長・白	内面 : 明赤褐 外面 : にぶい赤褐	普通	内面 : 口縁部横方向のナデ。胴部上位斜方向のナデ、中位横・斜方向のナデ後、縦方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ。胴部縦方向のヘラケズリ。	上半部ほぼ完形	カマド袖	カマド構築材。
6	土師器 甕	口径 :(19.8) 器高 :[9.2]	チ・凝・白・黒・石	内面 : 明赤褐 外面 : にぶい赤褐	良好	内面 : 口縁部～肩部横方向のナデ。 外面 : 口縁部横方向のナデ。肩部縦・斜方向のヘラケズリ。	口縁～肩部 25%	覆土下層	

3　土坑

1号土坑（第21図　図版4）

調査区中央南寄りに所在する。

南側が5号竪穴建物と重複し、本遺構が新しいことが確認されている。

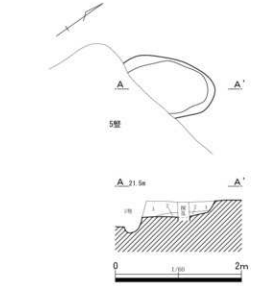
平面形状は不整楕円形で、断面形状は逆台形を呈する。底面は、概ね平坦である。

規模は、検出された範囲で長軸1.51 m、短軸0.92 m、深さ0.26 mを測る。長軸方位は、N-45°-Eである。

覆土は、2層に分層される。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土からなる。

遺物は、覆土中から僅かに土師器がみられた。

本土坑の時期は、不明である。



A-A'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～30mm）少量
2	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量

第21図　1号土坑

4　溝

1号溝（第22図　図版4）

調査区東側に所在する。一部のみの検出で、西側を除く三方は調査区域外に延びる。

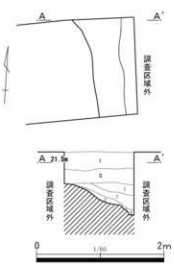
N-6°-Wを軸とし、ほぼ直線的に走行する。底面が検出されていないため、断面形状は不明である。壁面は、緩やかに立ち上がる。

規模は、検出長最大1.54 m、検出幅最大0.97 m、深さ最大0.49 mを測る。

覆土は、4層に分層される。ローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土からなり、レンズ状堆積を呈する。

遺物は、覆土中から僅かに土師器がみられた。

本溝の時期は、不明である。



A-A'

	色調	締り	粘性	備考
1	暗褐色	普通	普通	ローム粒子微量
2	暗褐色	普通	普通	ローム粒子少量　ロームブロック（φ5～10mm）微量
3	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～30mm）中量
4	暗褐色	普通	普通	ローム粒子中量　ロームブロック（φ5～30mm）多量

第22図　1号溝

Ⅳ　総括

上谷遺跡16区の発掘調査では、竪穴建物５棟、土坑１基、溝１条が検出された。本章では、各遺構出土遺物の変遷を検討するとともに、１号竪穴建物の性格について考察を行う。

１　出土遺物の変遷について

出土遺物のうち土師器を中心に形式的変遷を検討し、次の４期に区分した（第23図）。以下その概要について述べる。

Ⅰ期（古墳時代中期前葉）

高坏は、和泉式の系譜を引き、坏部が直線に開き、脚柱部はやや長脚の傾向が看取される。甑は無彩で、胴部は球体に近く、比較的古相の特徴を残していると言えよう。出土資料が少なく、想定の域を出ないが、器形などから器種組成は、高坏が主体とみられる。

３号竪穴建物が該当し、今回の調査区では最古段階である古墳時代中期前葉（５世紀前葉）ととらえたい。上谷遺跡で当該期の遺構の類例は少なく、４区２号竪穴建物（『上谷遺跡２』）などがこの段階に位置づけられよう。

Ⅱ期（古墳時代中期後葉）

１号竪穴建物が該当し、今回の調査で良好な一括資料群が出土した。

高坏は、低脚化が進行し、坏部の下部には突帯がめぐり、脚端部は反り返っている。坏部は、前時代からの伝統的な器形と、坏類と同様の器形をしたものがみられる。長胴甕は、胴部下位に最大径を持ち、やや下膨れした印象をもつ。

坏類は、外面底部を除く内外面の赤彩を基本とする。器形は口縁部が「く」の字に内傾する個体と、外反し「S」字状を呈する個体の２種類が主体であり、少量だが口縁部が外反する坏蓋模倣坏もみられる。器高は5cm前後に集中し、口径については10～11cm台のものと、12cm台後半の２種類が存在する。「S」字状口縁坏については深身の印象であり、いわゆる「比企型坏」の初源的な段階に位置づけられよう。

坏類に「く」の字状口縁と「S」字状口縁の両者がみられることから、当該期を中期後葉（５世紀末葉）ととらえたい。

Ⅲ期（古墳時代終末期中葉）

本調査区では、６世紀代に帰属する遺構は検出されておらず、Ⅱ期との間には一定の空白期が存在し、Ⅲ期へと変遷する。

Ⅲ期になると、甕の長胴化が進行し、胴部はスリムな印象を受ける。また、小型の台付甕や小型甑がみられることから、調理形態の多様化などが想定されよう。

坏は、口唇部内面に沈線が巡らせるものが主体となり、口径は11cm台後半、器高は４cm前後に集中する。赤彩の範囲は外面の口縁部と、内面全体に施される。前段階に見られた「S」字状口縁の個体は大型の器種のみとなり、小型坏においては、いわゆる「比企型坏」が定型化した段階と言えよう。このほか、客体的な器形として、銅椀模倣とみられる半球形の埦型坏や、無彩の坏蓋模倣坏、「ハ」の字状に口縁部が開く浅身の大型坏などが伴っている。

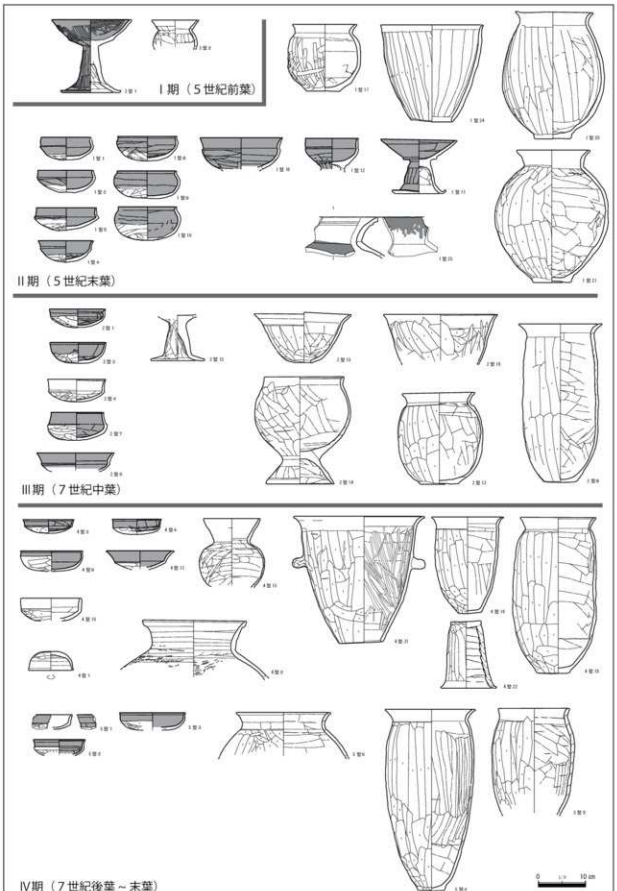
２号竪穴建物がこの段階に該当し、当該期を終末期中葉（７世紀中葉）と考えたい。

Ⅳ期（古墳時代終末期後葉～末葉）

長胴甕は前段階の系譜を引くものと、胴部上位に最大径を持つものが存在し、後者が若干新しい様相を示す。甑は把手付甑が多く見られる。新たな器種として、小型長胴甕や土製のカマド支脚などが登場する。

坏は前段階に比べ小型化し、口径が９cm台後半から10cm台前半、器高は３cm前後に法量分布が集中する。大型の埦型坏は直径13cm程度で、前段階に引き続き、口縁部が短く外反するＳ字状口縁の個体がみられる。「ハ」の字状口縁の大型坏は、口縁部がさらに開き浅身となり、皿状を呈する。

４号竪穴建物と５号竪穴建物をこの段階に位置づけるが、両遺構には、長胴甕において若干の



第 23 図　上谷遺跡 16 区土器変遷図

時期差を認めることもできる。しかし、５号竪穴建物の出土資料が少ないことから判断材料が乏しい。そのため、ここでは積極的に時期区分は行わず、当該期を古墳時代終末期後葉から末葉（７世紀後葉～末葉）としておきたい。

２　１号竪穴建物について

調査区南側で検出された１号竪穴建物について、遺構の形態や遺物出土状況などから、その性格について若干の考察を行う。１号竪穴建物は一辺約２m、深さ 0.3 mを測る隅丸方形の竪穴状遺構である。底面こそ意識して貼床状に整地されているものの、竪穴建物において普遍的にみられる壁周溝や柱穴、貯蔵穴などといった各種構造物は一切見られず、カマド、炉のような火床にあたる被熱箇所も存在していない。そのため、現場調査段階においては倉庫等の小規模かつ簡易的な竪穴建物の可能性を想定した。

遺物出土状況をみると、完形品に近い遺物が、竪穴の東側に集中しており、遺物は床面直上だけではなく、床面との間に若干の黒褐色土層の間層を挟み出土している個体もある。遺物の器種組成は、坏、高坏、埦など小型の共膳具や、甕や甑、壺などの大型器種と多岐にわたるが、ほぼ全てが土師器であり、須恵器は大甕の口縁部破片１点が出土しているのみである。石製模造品や臼玉、ミニチュア土器や鉄製品などといった祭祀行為等を想起されるような特殊遺物は出土していない。

出土遺物にみられる特筆事項として、二次被熱による痘痕状剥離痕が挙げられよう。二次被熱が認められる個体は、坏３、埦１、高坏１、鉢２の計７個体であり、共膳具が主体で構成される。また、上記の遺物以外にも、被熱によって土壌化し、取り上げ不可能な土師器坏や、細片になるまで劣化・崩壊が進んでいた個体が複数確認されており、実際にはより多くの被熱した個体が存在していたと推定される。剥離痕は、坏や埦、高坏の内面で顕著に観察でき、外面には確認できないことから、熱源に包まれる火災や焚火などではなく、器内で火を焚く行為の反復などによって生じた痕跡とみることもできよう。

今回発見された１号竪穴建物は、５世紀後半段階の遺構としては集落の南端部に位置している。

南方 100 mの地点には浅い埋没谷が存在していることから、本遺構の周辺が古墳時代を通して集落の南限域であったとみられる。居住域のはずれにおいて発見された１号竪穴建物は、単に「器物の保管庫」ではなく「祭祀的性格の強い施設」である可能性も想定されよう。

周辺での祭祀後の埋納行為とされる類例としては、川越市女堀Ⅱ遺跡 76・77 号土坑などが挙げられる。土坑の形状や、出土状況においては類似点が見いだせるものの、いずれの遺構も古墳時代中期の所産であり、石製模造品を多く伴う点においても本遺構とは性格を異にしている。

仮に本遺構が祭祀行為に伴う遺構であると仮定しても、その祭祀行為を復元し、検証する術は現段階では存在しない。上谷遺跡の過去の調査事例からここを「土器づくりのムラ」として、想像をたくましくするならば、器内で火を焚く行為を伴う祭祀行為が、火を生業とする土師器の製作集団によって執り行われていた可能性と、祭祀行為後の埋納行為の帰結が１号竪穴建物であったと想定することもできよう。

【参考文献】

立石　盛詞　1987『女堀Ⅱ・東女堀原　霞ヶ関土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第 68 集
水口由紀子　1989「いわゆる比企型坏の再検討」『東京考古』第７号　東京考古談話会
平岩　俊哉　1996「古墳時代集落祭祀の一考察」『研究紀要』第 12 集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
平岩　俊哉　1996「古墳時代集落内祭祀小考－「集積型」を中心として－」『博古考古』第 12 号　博古研究会
尾形　則敏　2007「土師器の地域性と比企型坏の特徴－埼玉県における比企型坏を中心として－」『第６回企画展　川と人々の暮らし』朝霞市博物館
尾形　則敏　2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識－(仮称)「入間系土師器」の実態と生産地推定を例として－」『埼玉考古』第 43 号　埼玉考古学会

写　真　図　版

1　調査区全景（南西から）

2　調査区全景（北西から）

1　1号竪穴建物　遺物出土状況

2　1号竪穴建物　遺物出土状況

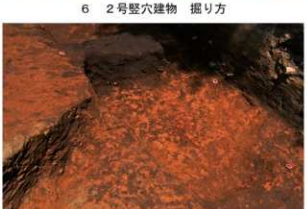
3　1号竪穴建物

4　1号竪穴建物　掘り方

5　2号竪穴建物

6　2号竪穴建物　掘り方

7　2号竪穴建物カマド



8　2号竪穴建物カマド　掘り方

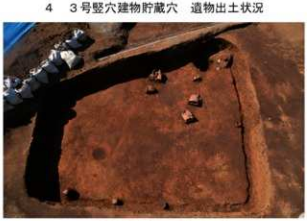
1　３号竪穴建物

2　３号竪穴建物　掘り方

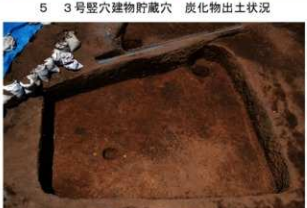
3　３号竪穴建物　掘り方

4　３号竪穴建物貯蔵穴　遺物出土状況

5　３号竪穴建物貯蔵穴　炭化物出土状況



6　４号竪穴建物　遺物出土状況



7　４号竪穴建物

8　４号竪穴建物　掘り方

1　4号竪穴建物カマド

2　5号竪穴建物

3　5号竪穴建物

4　5号竪穴建物カマド

5　5号竪穴建物カマド　遺物出土状況

6　5号竪穴建物カマド　掘り方

7　1号土坑

8　1号溝

1　1号竪穴建物　第7図1

2　1号竪穴建物　第7図2

3　1号竪穴建物　第7図3

4　1号竪穴建物　第7図4

5　1号竪穴建物　第7図5

6　1号竪穴建物　第7図6

7　1号竪穴建物　第7図9

8　1号竪穴建物　第7図10

1　1号竪穴建物　第7図 11

2　1号竪穴建物　第7図 12

3　1号竪穴建物　第7図 13

4　1号竪穴建物　第7図 16

5　1号竪穴建物　第7図 17

6　1号竪穴建物　第7図 18

7　1号竪穴建物　第7図 19

1　1号竪穴建物　第 7 図 20

2　1号竪穴建物　第 7 図 21

3　1号竪穴建物　第 8 図 22

4　1号竪穴建物　第 8 図 23

1　1号竪穴建物　第 8 図 24

2　1号竪穴建物　第 8 図 25

3　1号竪穴建物　遺物集合写真

1　2号竪穴建物　第 11 図 1

2　2号竪穴建物　第 11 図 2

3　2号竪穴建物　第 11 図 3

4　2号竪穴建物　第 11 図 4

5　2号竪穴建物　第 11 図 7

6　2号竪穴建物　第 11 図 15

7　2号竪穴建物　第 11 図 9

1　2号竪穴建物　第 11 図 13

2　2号竪穴建物　第 11 図 14

3　2号竪穴建物　第 12 図 17

4　2号竪穴建物　第 12 図 18

5　2号竪穴建物　第 12 図 19

6　2号竪穴建物　第 12 図 21

1　3号竪穴建物　第 14 図 1

2　3号竪穴建物　第 14 図 4

3　3号竪穴建物　第 14 図 5

4　3号竪穴建物　第 14 図 6

5　3号竪穴建物　第 14 図 7

6　3号竪穴建物　第 14 図 8

1　4号竪穴建物　第 17 図 1

2　4号竪穴建物　第 17 図 3

3　4号竪穴建物　第 17 図 4

4　4号竪穴建物　第 17 図 5

5　4号竪穴建物　第 17 図 6

6　4号竪穴建物　第 17 図 7

7　4号竪穴建物　第 17 図 8

8　4号竪穴建物　第 17 図 10

1　4号竪穴建物　第 17 図 13

2　4号竪穴建物　第 17 図 14

3　4号竪穴建物　第 17 図 15

4　4号竪穴建物　第 17 図 16

5　4号竪穴建物　第 17 図 17

1　4 号竪穴建物　第 18 図 21

2　4 号竪穴建物　第 18 図 22

3　4 号竪穴建物　第 18 図 23

4　4 号竪穴建物　第 18 図 24

5　4 号竪穴建物　第 18 図 26

1　4号竪穴建物　第 18 図 27

2　4号竪穴建物　第 18 図 28

3　4号竪穴建物　第 18 図 29

4　5号竪穴建物　第 20 図 4

5　5号竪穴建物　第 20 図 5

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみやいせきじゅうろくく
書名	上谷遺跡 16 区
副書名	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山本良太・宮田忠洋
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146　群馬県前橋市公田町 1002 番地 1　　TEL 027-265-1804
発行機関	埼玉県坂戸市教育委員会
発行機関所在地	〒350-0292　埼玉県坂戸市千代田一丁目 1 番 1 号　TEL 049-283-1331
発行年月日	2023(令和 5) 年 2 月 17 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
上谷遺跡 16 区	埼玉県坂戸市 大字中小坂 字金山 519 番 1	11239	27-027	35° 57′ 03″	139° 26′ 41″	2021. 3.19 ～ 2021. 5.11	117㎡	認定こども園 園舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上谷遺跡 16 区	集落	縄文時代 古墳時代 時期不明	竪穴建物　　5 棟 土坑　　1 基 溝　　1 条	縄文土器（深鉢） 土師器（坏・高坏・埦・甘・小型壺・鉢・小型甕・台付甕・甕・小型甑・甑・ミニチュア）、須恵器（坏蓋・甕）、土製品（支脚・土錘）、石製品（紡錘車・有孔円板・剣形・砥石）、鉄製品（鑿）	

要　約	上谷遺跡は、坂戸台地南東部に位置する。遺跡北側は大谷川に向かって緩やかに傾斜する緩斜面となっており、中央部には平坦面な面が広がり、南側には埋没谷が存在している。昭和 44 年に城西大学考古学研究会による学術調査を嚆矢に、これまでに 26 地点で調査を実施している。 今回の調査で検出された遺構は、竪穴建物 5 棟、土坑 1 基、溝 1 条である。竪穴建物はすべて古墳時代中期から終末期に比定される。溝と土坑については出土遺物等が少なく、時期は不明である。 1 号竪穴建物は、一辺約 2 m の竪穴建物で、ほぼ完形の遺物が多数出土している。2 号竪穴建物と 3 号竪穴建物は切り合い関係にあり、3 号竪穴建物は調査区内で最も古い段階である古墳時代中期前葉に比定される。4 号竪穴建物は、一辺約 5 m を測り、床面付近より複数の関係に近い遺物が出土している。北側に敷設されたカマド部分については、一部のみの検出にとどまり、大半は既設水道管による制約を受けており、詳細は不明である。

上谷遺跡 16 区

2023 年 2 月 17 日　発行

発行者　埼玉県坂戸市教育委員会
埼玉県坂戸市千代田一丁目 1 番 1 号

印　刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町 67 番地